

授 業 科 目	教 養 演 習		単位数	1	担当教員	小 堀 他
講義のねらいと概要および到達目標	この授業は、広い意味での「教養」を身に着けるためのものであり、大きくわけて「身体」や「生命」についての理解を深め、「生活常識」を身につけることを学んでもらう。 保育者は、子どもの生命の大切さを教え、子どもたちの生活や行動の模範となることが求められる仕事である。そのためには、まず自分自身の身体や生命を大切にし、美しい立ち居振る舞いや言葉遣いで日常生活を送るよう努める必要がある。このことを真剣に受け止めた上で受講してもらいたいと思う。 ①若い女性として自分の身体や生命についての理解を深めること。 ②社会人としてのマナーや礼儀作法を身に着けること。					
授 業 計 画	第1週	授業内容や評価方法等のガイダンス				
	第2週	人間の体のつくり				
	第3週	女性ライフサイクルと体の変化				
	第4週	月経について				
	第5週	妊娠・出産について				
	第6週	性感染症と健康への影響				
	第7週	女性の病気について				
	第8週	命を守ること・筆記試験				
	第9週	社会人としての基本マナー（1）：立ち居振る舞いの基本				
	第10週	社会人としての基本マナー（2）：職場のルールとマナー				
	第11週	訪問と対応のマナー、もてなしのマナー				
	第12週	言葉づかいの人間関係のマナー				
	第13週	電話・手紙・文書マナー				
	第14週	食事のマナー				
	第15週	まとめ				
指導方法履修上の注意	授業は、第2週～第8週（担当：西山）はクラスごとに行い、第9週～第11週(担当：鯛谷)と第12週～第14週（担当：榎本）は、クラスを2つに分けた少人数グループで行う。 卒業及び資格取得のための必修科目なので、全員が履修すること。					
成績評価の方法	西山：筆記試験（60%）・授業態度（40%）、鯛谷・榎本：授業態度（100%）この二つの評価を合計して評価する。					
教科書	『新生活教養』（近喰晴子他、建帛社）					
参考文献						

授 業 科 目	基 礎 演 習		単位数	1	担当教員	宮内・中村・清水
講義のねらいと概要および到達目標	保育者になるために必要な専門科目を十分に理解し、効果的な学習をするための基礎となる力を身に着けるための授業である。1 クラス 20 名程度とし、演習形式で「文章表現」と「プレゼンテーション」・「算数」・「時事問題」の基礎を学ぶ。 ここで身に着けた文章力やプレゼンテーション能力、算数力等は、幼稚園教諭免許や保育士資格に必要な 5 回の実習の際にも大きな力を発揮するはずであるし、卒業後、保育者として現場に出たときにも、必ず必要とされる能力なので、積極的に授業に参加することが望まれる。 ①実習日誌や指導案作成に必要な文章力を身につける。 ②子どもたちの前でわかりやすく説明できる表現力の基礎を培う。 ③専門科目の学習の準備としての数的処理能力や時事的な知識を増やす。					
授 業 計 画	第 1 週	文章表現①：良い文章と悪い文章・主語と述語の配置				
	第 2 週	文章表現②：センテンスの区切り方・修飾語と被修飾語の配置				
	第 3 週	文章表現③：敬語の使い方・丁寧語の使い方				
	第 4 週	文章表現④：語彙の習得				
	第 5 週	文章表現⑤：漢字を学ぶ				
	第 6 週	文章表現⑥：文書マナー				
	第 7 週	文章表現⑦：文書マナー				
	第 8 週	プレゼンテーション①：自分を知ろう				
	第 9 週	プレゼンテーション②：自分を表現しよう				
	第 10 週	プレゼンテーション③：どんな保育者をめざすか				
	第 11 週	数学の基礎①：算数の復習				
	第 12 週	数学の基礎②：中学の数学の復習				
	第 13 週	時事の基礎①：細菌の出来事を読む				
	第 14 週	時事の基礎②：保育の現状を読む				
	第 15 週	試験・まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	各クラスを 2 グループに分け、1 つのグループは上記授業計画の第 1 週目の授業内容から始め、もう 1 つのグループは第 8 週目の授業内容からスタートする形で進める。 卒業及び資格必修科目なので、全員が履修すること。					
成績評価の方 法	筆記試験及び課題（50％）、授業態度（50％）					
教 科 書	特になし					
参 考 文 献	授業中に適宜紹介する。					

授 業 科 目	日 本 国 憲 法	単 位 数	2	担 当 教 員	平 田 陽 一
講義のねらいと概要	国民主権・基本的人権の尊重を基本的理念とする憲法を理解するためには、その法思想的背景を理解する必要がある。これらの憲法上の法理念がわが国で生まれたものではなく、西欧で生まれた自然法思想などに由来するものだからである。しかもこれらの法理念はわが国の教育においてほとんど説明されていないものである。それが原因となって、個人的レベルでは自律した人間としての成長の阻害、他人の人権に対する無思慮な侵害、国家的レベルでは民主主義の未成熟というような重要な問題を生じさせている。到達目標は、社会は個々の市民の良識に基づいて作るというのが憲法の根底にある考え方であり、このような意識を持てるようになること。				
授 業 計 画	第 1 週	憲法について			
	第 2 週	自然法思想と近代立憲主義			
	第 3 週	近代国家と憲法			
	第 4 週	憲法の基本原理＝平和主義			
	第 5 週	憲法の基本原理＝国民主権主義			
	第 6 週	憲法の基本原理＝人権尊重主義			
	第 7 週	憲法の基本原理＝権力分立主義			
	第 8 週	国民の権利＝人権			
	第 9 週	国民の権利＝自由権			
	第 10 週	国民の権利＝社会権			
	第 11 週	国民の権利＝参政権等			
	第 12 週	統治機構＝立法機関			
	第 13 週	統治機構＝行政機関			
	第 14 週	統治機構＝司法機関			
	第 15 週	憲法の現代的諸問題			
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	憲法は国家（政府）と国民の関係についての基本的な法規範であり、「講義のねらいと概要」で簡単にふれたところであるが、個人の幸福や社会の一員としてのあり方と密接な関係にある。したがって、一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、より意欲的な、自己の人生（幸福の追求）や社会のあり方を考えるという心構えで勉強することが望まれる。				
成績評価の方法	筆記試験（８０％）、授業態度（２０％）、原則として筆記試験の結果による。				
教 科 書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）				
参 考 文 献	参考文献は初回の講義のときに説明をする。				

授業科目	体 育 実 技		単位数	1	担当教員	塩崎 みづほ
講義のねらいと概要および到達目標	本講義では、生涯にわたって運動・スポーツと親しむための基礎的技能の習得、正しい知識、実践方法について学ぶとともに、運動・スポーツを通して他者との関り方について考えることをねらいとする。さらに、将来幼児教育者として適切に動け、子どもを援助指導できるように、学生の運動に関する資質の向上を図る。 ①□ 運動・スポーツに親しむための基礎的技能の習得 ②□ 自己の身体に関心をもち、健康の維持・向上を実践していく知識・方法の習得 ③□ 運動・スポーツを通して協調性・社会性を養う ④□ 幼児教育者として必要な身体運動に関する基本的な知識と技能の習得					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。(第10時限までは共通) 1) 平常コース 2) スケート教室(12月下旬予定3泊4日) 3) スキー教室(2月初旬予定3泊4日) 上記コースの説明 履修方法、受講上の注意事項等について説明	第13週	バドミントン②		
			第14週	バドミントン③		
			第15週	ソフトバレーボール①		
			第16週	ソフトバレーボール②		
	第2週	からだほぐし こころほぐし	第17週	ソフトバレーボール③		
	第3週	リズムカルに動く①	第18週	卓球①		
	第4週	リズムカルに動く②ー友達と関ってー	第19週	卓球②		
	第5週	リズムカルに動く③ー動きの発見ー	第20週	テニス①		
	第6週	準備体操いろいろ	第21週	テニス②		
	第7週	ドッジボール	第22週	テニス③		
	第8週	フリスビー、リングボールを作って遊ぶ	第23週	まとめ		
	第9週	バスケットボール①				
	第10週	バスケットボール②				
	第11週	バスケットボール③				
	第12週	バドミントン①				
指導方法 履修上の注意	体操着を着用すること。運動靴は、内履き、外履きを準備すること。 出席を重視する。 意欲を持って積極的に取り組む姿勢を大きく評価する。 ＊2) スケート、3) スキーコースに係る各諸費用については、全額学生負担となる。					
成績評価の方法	レポート(20%)、課題(20%)、実技(30%)、授業態度(30%)					
教科書	適宜プリントを配布する					
参考文献	『0歳からはじめるうごきづくり』(太田昌秀他著、幻冬舎ルネサンス)					

授 業 科 目	体	育	講	義	単位数	1	担当教員	塩 崎	みづほ
講義のねらいと概要および到達目標	錯綜とした現代社会は、健康や運動に関する情報が氾濫している。それらに対応していく力をつけることが望まれるだろう。よって、本講義では健康・運動・体力について正しい知識を学び、自ら健康の維持増進の方法を考え、実践していく力を養うことがねらいである。 到達目標は、①健康に関する正しい知識を学び、健康的なライフスタイルを目指せるようにする、②幼児期、学童期、青年期の発達と運動の関係について学ぶ、③将来幼児教育者とし自己の健康管理、子どもたちの健康・運動の援助指導を適切に行えるよう基礎的知識を習得する、である。								
授 業 計 画	第1週	人間の健康と運動							
	第2週	体力、運動能力の定義およびその発達							
	第3週	幼児期・学童期・青年期の発達の特徴と運動							
	第4週	心身の発育発達							
	第5週	青年期の性とSTD							
	第6週	トレーニングの基礎理論							
	第7週	スポーツ障害と外傷、応急処置							
	第8週	現代社会と運動遊びの意義							
	第9週								
	第10週								
	第11週								
	第12週								
	第13週								
	第14週								
	第15週								
指導方法 履修上の 注 意	授業開始は11月からである。								
成績評価の 方 法	筆記試験（50％）、レポート（10％）、課題（10％）、授業態度（30％）								
教 科 書	適宜、プリントを配布								
参 考 文 献									

授 業 科 目	宗 教 と 文 化		単 位 数	2	担 当 教 員	宮 内 淳 平
講義のねらいと概要および到達目標	私達は常日頃いろいろな宗教とふれ合っている。本講義では、日常生活に横たわっている宗教に関する主要なテーマを取りあげ、それらの宗教行事に流れる思想・文化等多角的に検討し、日本人と文化について考えてみる。また、それぞれのテーマの中で、具体的に日本の民族宗教である神道、中国の民族宗教である道教・儒教等にもふれ、民間伝承宗教行事の具体例をも取りあげ、死生観を含み宗教の役割及び機能について総合的に考えてみる。					
授 業 計 画	第 1 週	日常の宗教的考えについて				
	第 2 週	日本人の宗教に対する考えと信仰の自由について				
	第 3 週	宗教の誕生と起源				
	第 4 週	原始宗教とアニミズム・シャーマニズム・トーテミズム				
	第 5 週	宗教の定義・宗教の分類				
	第 6 週	宗教儀礼と通過儀礼				
	第 7 週	日本神話の歴史と神道について				
	第 8 週	呪術と祈りについて				
	第 9 週	生活の中の宗教と民間信仰				
	第 10 週	天の思想と中国民族宗教及び儒教について				
	第 11 週	中国道教について生活				
	第 12 週	日本人の死生観『地藏十王経』についてⅠ				
	第 13 週	日本人の死生観『地藏十王経』についてⅡ				
	第 14 週	宗教と科学の関係について及び現代社会のでの宗教問題について				
	第 15 週	現代社会と宗教と生き甲斐について				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	授業で毎回レジュメを配布するのでテキストは特に使用しない。講義の時適宜レジュメを配布予定。欠席した場合は友達からコピーするなど必ず用意すること。					
成績評価の方法	課題（70 %）授業態度（ 30 %）					
教 科 書	特に使用しない、毎回レジュメ配布予定。					
参 考 文 献						

授 業 科 目	現 代 社 会 事 情		単位数	2	担当教員	松 木 久 子
講義のねらいと概要および到達目標	日々さまざまな問題が起きている現代社会ですが、一見、無関係をとと思われるようなことでも実は大いに関係があり、自分の将来が左右される問題であるかもしれません。そこで一般常識として知らなければならない時事問題を理解する力を養うことを目標とし、日本の政治・社会問題・国際問題等に関する事柄について、十分な理解力をつけていくことを目指し、さらにこれからの日本や世界のあり方を考えられるよう指導します。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の概要等				
	第2週	社会(1)：司法制度改革				
	第3週	社会(2)：格差・少子高齢化社会				
	第4週	社会(3)：年金問題、医療保険改正				
	第5週	政治(1)：与党と野党				
	第6週	政治(2)：憲法改正論				
	第7週	政治(3)：選挙制度				
	第8週	経済(1)：消費税率引き上げ問題				
	第9週	経済(2)：株価動向				
	第10週	国際(1)：北朝鮮問題				
	第11週	国際(2)：アメリカ大統領選挙				
	第12週	国際(3)：国際連合と国際機関				
	第13週	地球温暖化問題(1)				
	第14週	地球温暖化問題(2)				
	第15週	試験およびこれまでのまとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	授業形態は講義が中心となりますが、発表や映像鑑賞を取り入れたりしながら、弾力的に展開していこうと思います。日頃から身の回りの出来事に興味・関心をもち、毎日一回は新聞に目を通し、ニュースに耳を傾けてください。図書館等を利用して、自ら積極的に調べることを通して、主体的に学ぶ態度を養ってください。					
成績評価の方法	筆記試験（４０％）、発表（３０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	特に指定はしません。					
参 考 文 献	授業中に適宜、必要なプリント・資料等を配布します。					

授 業 科 目	エ コ ロ ジ ー 入 門		単位数	2	担当教員	中 村 陽 一
講義のねらいと概要および到達目標	エコロジー（ecology）は「生態学」と訳され、本来は「生物と環境のかかわりを研究する学問」である。近年、地球環境問題が深刻化する中、「エコロジー」は人間と自然との共存を目指す思想や活動を表す言葉として使われるようになった。本講は、人類が地球環境に対して与えてきた影響について歴史的に検証し、地球環境問題の現状をエコロジーの視点から学ぶ。 到達目標 １．人類が地球環境に与えてきた影響について、エコロジーの視点から理解する。 ２．現在の地球環境問題について、その概要を知り説明できる。 ３．環境問題について問題意識を持ち、自分の意見を述べることができる。					
授 業 計 画	第1週	エコロジー（生態学）とは何か　－　その思想と歴史、地球環境問題の概要				
	第2週	エコロジーから見た世界史①　－　イースター島の悲劇				
	第3週	エコロジーから見た世界史②　－　古代文明と森林破壊				
	第4週	エコロジーから見た世界史③　－　西欧文明と環境破壊				
	第5週	エコロジーから見た日本史①　－　持続可能な社会だった江戸時代				
	第6週	エコロジーから見た日本史②　－　エコロジーから見た伊勢神宮の式年遷宮				
	第7週	エコロジーから見た日本史③　－　公害問題と環境問題				
	第8週	環境問題の現状①　－　地球温暖化の現状				
	第9週	環境問題の現状②　－　温暖化は何をもたらすか				
	第10週	環境問題の現状③　－　ヒートアイランド現象				
	第11週	環境問題の現状④　－　オゾン層破壊				
	第12週	環境問題の現状⑤　－　生物種の絶滅				
	第13週	再生可能エネルギーとエコロジー①　－　太陽光発電と風力発電				
	第14週	再生可能エネルギーとエコロジー②　－　地熱発電とバイオマス利用				
	第15週	地球の未来はどうなるか　－　限界に達した地球				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・教科書のほか、スライドを用いた視覚的に解りやすい授業を行う。 ・日常から環境問題に関心を持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。					
成績評価の方法	筆記試験（70％）、授業態度（30％）					
教 科 書	『環境経営論』（中村陽一他著、創成社）					
参 考 文 献	授業中に紹介する					

授業科目	情 報 機 器 操 作		単位数	2	担当教員	金 宰 郁
講義のねらいと概要および到達目標	情報機器は幼児教育の場においても、その進展は目覚ましいものがあります。これからの時代を考慮すると、教育現場におけるマルチメディアを用いての、楽しく創造的な教育の方法がさらに望まれると考えられます。また、教育に関連する文書業務・情報交換・情報収集等は、コンピュータによりその多くが行われていると考えられます。 本科目では、幼児教育を行う方法の上での技術として、情報機器を利用するには、どのような考え方でどのような情報機器を用いて行うことが最も適切なのかについて理解を図ります					
授 業 計 画	第1週	この授業科目に関するガイダンス				
	第2週	Windows の基本操作(1)：OS, GUI, 自己紹介文作成および提出				
	第3週	Windows の基本操作(2)：ファイル管理, 種類, 文書の保存・読み込み, その他				
	第4週	絵の作成の基礎(1)：絵描きソフト（ペイント）による文化表現関連課題の作成および提出				
	第5週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1)：文書形式, 文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出				
	第6週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2)：文字サイズの変更, 文字揃えなどの関連課題の作成および提出				
	第7週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3)：均等割付・段組, 縦書き文字などの関連課題の作成および提出				
	第8週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4)：表作成と編集①の関連課題の作成および提出				
	第9週	日本語ワープロソフト「Word」の応用：表作成と編集②の関連課題の作成および提出				
	第10週	日本語ワープロソフト「Word」の応用：クリップアート, ワードアートの関連課題作成, 及び提出				
	第11週	日本語ワープロソフト「Word」の応用：図形描画の関連課題作成, 及び提出				
	第12週	日本語ワープロソフト「Word」の応用：段組み, ドロップキャップ, ページ罫線の関連課題作成, 及び提出				
	第13週	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の構成とスライド, オブジェクトの編集, その他				
	第14週	プレゼンテーション「PowerPoint」：発表の準備, その他				
	第15週	プレゼンテーション発表：プレゼンテーション発表：グループごとに PowerPoint で1つの作品を作り, 発表				
指導方法履修上の注意	本授業では、情報機器によりよく利用・操作するための基本を講義するとともに、その具体的な例を示し指導します。したがって、 1) 積極的に授業に参加すること。やむを得ない理由により授業を欠席する（欠席した）場合、すみやかに担当教員に連絡して必要な指示を受けてください。 2) 情報機器の操作技術の基礎理論を身に付けるには、かなりの努力を必要とします。予習・復習を怠らず頑張ってください。 3) 課題が出題された場合、担当教員の指示する提出方法および提出期限を厳守すること。					
成績評価の方法	課題（40％）、発表（20％）、授業態度（40％）					
教科書	『文系学生のための情報活用』（共立出版）					
参考文献	『Windows Vista 対応 30 時間でマスター：Word 2007』（実教出版） 『30 時間でマスター Word&Excel 2007』（実教出版編修部、実教出版）					

授業科目	情 報 機 器 操 作		単位数	2	担当教員	榎 本 功 子
講義のねらいと概要および到達目標	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。本講ではまず、コンピューターのしくみ コンピューター用語の解説 アプリケーションソフト（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフトなど）について解説し、パソコンの基本的な操作法を学ぶ。次いで、ワードによるさまざまな文書の作成法を習得する。					
授 業 計 画	第1週	コンピューターのしくみ コンピューター用語の解説 アプリケーションソフトの解説（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフト）				
	第2週	ワードの使い方 文字の入力、簡単な文章の作り方、整え方				
	第3週	ワードによる文書作成① 文字の設定				
	第4週	ワードによる文書作成② ワードアート				
	第5週	ワードによる文書作成③ ページ設定				
	第6週	ワードによる文書作成④ ハガキの設定				
	第7週	ワードによる文書作成⑤ 表の作り方				
	第8週	インターネットの使い方①「行き先を調べる」「路線を調べる」「地図を見る」				
	第9週	インターネットの使い方②「保育に使える素材を探し、保存する」				
	第10週	インターネットの使い方③ 素材を使って文書を作成する				
	第11週	メールの送受信とメールの書き方、写真の添付				
	第12週	多くの人に、一斉にメールを出す（メルマガ、お知らせメール）				
	第13週	ウイルスの予防と対策				
	第14週	クリスマスカードの作成				
	第15週	ポスターを作る				
指導方法履修上の注意	実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。					
成績評価の方法	課題（70％）、授業態度（30％）					
教科書	授業に合わせた課題プリントを配布予定。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授 業 科 目	英 語 (1)		単位数	2	担当教員	中 島 尚 樹
講義のねらいと概要および到達目標	この授業は、英語で簡単なコミュニケーションができるように、実践的な英語力の基礎を身につけるのがねらいです。具体的には、日常生活の身近な話題に関して英語で表現できるように、(1)BE 動詞の構文(現在と過去)を使えるようにする、(2)一般動詞の構文(現在と過去)を使えるようにする、そして、(3)日常生活の出来事を言い表すのに必要な基本的な語彙を身につけることです。また、時間があれば、文化的な違いなどにも触れたいと思っています。いちから説明していきますから、これまでは英語が大の苦手だったという人も、ぜひ短大での英語に新たな気持ちでチャレンジしてみてください。					
授 業 計 画	第 1 週	授業説明		第 16 週	Unit7 今英語を勉強しています(前半) 現在進行形	
	第 2 週	Unit 1 日本から来ました(前半) Be 動詞の構文		第 17 週	Unit7 今英語を勉強しています(後半) 現在進行形	
	第 3 週	Unit 1 日本から来ました(後半) Be 動詞の構文		第 18 週	Unit7 今英語を勉強しています 過去進行形	
	第 4 週	Unit 2 あなたの兄弟ですか？(前半) Be 動詞の疑問文		第 19 週	Unit 8 2年間英語を勉強しました(前半) 一般動詞の過去形(規則動詞)	
	第 5 週	Unit 2 あなたの兄弟ですか？(後半) Be 動詞の疑問文		第 20 週	Unit 8 2年間英語を勉強しました(後半) 一般動詞の過去形(規則動詞)	
	第 6 週	Unit 3 去年アメリカにいました(前半) Be 動詞の過去形		第 21 週	Unit 9 家族で沖縄に行きました(前半) 一般動詞の過去形(不規則動詞)	
	第 7 週	Unit 3 去年アメリカにいました(後半) Be 動詞の過去形		第 22 週	Unit 9 家族で沖縄に行きました(後半) 一般動詞の過去形(不規則動詞)	
	第 8 週	Unit 4 壁にポスターがあります(前半) 存在を表す there 構文		第 23 週	まとめ：一般動詞の過去形 文法問題の練習と英作文	
	第 9 週	Unit 4 壁にポスターがあります(後半) 存在を表す there 構文		第 24 週	Unit 10 今年の夏何をしますか？(前半) 未来を表す表現	
	第 10 週	まとめ：Be 動詞の現在形と過去形 文法問題の練習と英作文		第 25 週	Unit 10 今年の夏何をしますか？(後半) 未来を表す表現	
	第 11 週	Unit 5 家で映画を見ます(前半) 一般動詞の現在形		第 26 週	Unit 11 だれが一緒に行きますか？(前半) 疑問詞の疑問文	
	第 12 週	Unit 5 家で映画を見ます(後半) 一般動詞の現在形		第 27 週	Unit 11 だれが一緒に行きますか？(後半) 疑問詞の疑問文	
	第 13 週	Unit 6 日曜日は早く起きますか？(前半) 一般動詞の現在形(疑問文)		第 28 週	Unit 12 赤ワインを一本ください(前半) 数量の表し方	
	第 14 週	Unit 6 日曜日は早く起きますか？(後半) 一般動詞の現在形(疑問文)		第 29 週	Unit 12 赤ワインを一本ください(後半) 数量の表し方	
	第 15 週	前期期末試験・まとめ		第 30 週	後期期末試験・まとめ	
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	テキストに沿って、各課の前半では聞き取り、文法の説明などを、後半ではリーディング、英作問題などをやっていきます。英語が書けて、話せるようになるためには、その課で学んだ構文を確実に覚えていくことが非常に重要です。少しでもいいので、必ずテキストに出てくる単語や例文を覚えていってください。テキストに付いているCDを何度も繰り返し聞くのもいいでしょう。聞き取りの試験はありませんが、筆記試験に大いに役立ちます。					
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、課題 (20%)、授業態度 (10%)					
教 科 書	『Can-Do English』(妻鳥千鶴子・松井こずえ・稲盛泰代 著、桐原書店)					
参考文献						

授 業 科 目	英 語 (1)		単位数	2	担当教員	須 釜 幸 男
講義のねらいと概要および到達目標	「英語とコンピュータが出来れば食いつぶれない」という台詞はグローバル化時代に、より切実です。英語の得意・不得意、好き・嫌いは置いておき、この授業で親しみながら英語のイロハを体得していきましょう。到達目標は①「会話に花咲かせるためにも、英語圏の文化に注目」し、時事英語や映画（通販ブーム、個人情報漏洩、医療不信、民営化、派遣村、スマホ文化、格差社会、現代アート、税負担、仕事と家庭の両立、幸せのあり方など）を題材にします。②「社会トレンドを先取りしながら、あなたの好感度を高める」のがゴールです。また仕事で必要な③「TOEIC®の基礎や効率的学習方法」についても、丁寧に解説していきます。					
授 業 計 画	第1週	前期ガイダンス		第16週	後期ガイダンス	
	第2週	TOEIC® Part 1 の解説・演習（基礎編）		第17週	TOEIC® Part 1 の解説・演習（応用編）	
	第3週	TOEIC® Part 2 の解説・演習（基礎編）		第18週	TOEIC® Part 2 の解説・演習（応用編）	
	第4週	TOEIC® Part 3 の解説・演習（基礎編）		第19週	TOEIC® Part 3 の解説・演習（応用編）	
	第5週	TOEIC® Part 4 の解説・演習（基礎編）		第20週	TOEIC® Part 4 の解説・演習（応用編）	
	第6週	TOEIC® Part 5 の解説・演習（基礎編）		第21週	TOEIC® Part 5 の解説・演習（応用編）	
	第7週	TOEIC® Part 6 の解説・演習（基礎編）		第22週	TOEIC® Part 6 の解説・演習（応用編）	
	第8週	TOEIC® Part 7 の解説・演習（基礎編）		第23週	TOEIC® Part 7 の解説・演習（応用編）	
	第9週	上半期のまとめ		第24週	上半期のまとめ	
	第10週	時事英語		第25週	時事英語	
	第11週	時事英語		第26週	時事英語	
	第12週	時事英語		第27週	時事英語	
	第13週	時事英語		第28週	時事英語	
	第14週	下半期のまとめ		第29週	下半期のまとめ	
	第15週	前期授業全体のまとめ		第30週	後期授業全体のまとめ	
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	英語力は授業での学習だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知ること立派な英語力向上です。英語が苦手だと思う人は、映画や旅行、食事、ファッション、海外事情などといった部分からアプローチすることをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の情報を収集し、日本と海外の文化に違いに触れてみて下さい。					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、授業態度（50％）					
教 科 書	初講時に指定します。					
参考文献	初講時に指定します。					

授 業 科 目	英 語 (2)		単位数	2	担当教員	須 釜 幸 男
講義のねらいと概要および到達目標	英語（２）では、既に学習した「英語（１）」の基礎を土台に、使える英語や英語文化を学んでいきます。そこで、皆さんが専門とする保育や子どもにテーマを合わせ、文学や映画、アニメーション、時事問題、会話などから英語を学習していきます。受講に際しては、英語が苦手だからと心配することはありません。この授業の到達目標は①「国際化時代の保育士に求められる英語の素養や国際感覚の体得」で、②「堅苦しい英語ではなく、これまで身に付けてきた知恵や常識などをフルに活用」し、③「親しみながら英語を習得」していきます。					
授 業 計 画	第 1 週	前期ガイダンス		第 16 週	後期ガイダンス	
	第 2 週	幼児向け文学に触れる：欧州（基礎編）		第 17 週	幼児向け文学に触れる：欧州（応用編）	
	第 3 週	幼児向け文学に触れる：米国（基礎編）		第 18 週	幼児向け文学に触れる：米国（応用編）	
	第 4 週	幼児向け文学に触れる：日本（基礎編）		第 19 週	幼児向け文学に触れる：日本（応用編）	
	第 5 週	幼児向け映画を鑑賞する：欧州（基礎編）		第 20 週	幼児向け映画を鑑賞する：欧州（応用編）	
	第 6 週	幼児向け映画を鑑賞する：米国（基礎編）		第 21 週	幼児向け映画を鑑賞する：米国（応用編）	
	第 7 週	幼児向け映画を鑑賞する：日本（基礎編）		第 22 週	幼児向け映画を鑑賞する：日本（応用編）	
	第 8 週	まとめ		第 23 週	まとめ	
	第 9 週	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（基礎編）		第 24 週	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（応用編）	
	第 10 週	保育をめぐる海外事情を知る：米国（基礎編）		第 25 週	保育をめぐる海外事情を知る：米国（応用編）	
	第 11 週	保育をめぐる海外事情を知る：日本（基礎編）		第 26 週	保育をめぐる海外事情を知る：日本（応用編）	
	第 12 週	保育・子どもに用いる会話（基礎編）		第 27 週	保育・子どもに用いる会話（応用編）	
	第 13 週	保育・子どもに用いる会話（基礎編）		第 28 週	保育・子どもに用いる会話（応用編）	
	第 14 週	保育・子どもに用いる会話（基礎編）		第 29 週	保育・子どもに用いる会話（応用編）	
	第 15 週	まとめ		第 30 週	まとめ	
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	英語力は授業での学習だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知ること立派な英語力向上です。英語が苦手だと思う人は、映画や旅行、食事、ファッション、海外事情などといった部分からアプローチすることをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の情報を収集し、日本と海外の文化に違いに触れてみて下さい。					
成績評価の方法	筆記試験（５０％）、授業態度（５０％）					
教 科 書	初講時に指定します。					
参 考 文 献	初講時に指定します。					

授業科目	図 画 工 作		単位数	2	担当教員	染 谷 哲 夫
講義のねらいと概要および到達目標	子どもたちの造形活動（あそぶ・えがく・つくる）を理解し展開するために、保育者として必要な基礎的な知識や技術を学ぶことをねらいとする。 ① 造形に関しての基礎的な知識や技術を理解する。 ② 制作活動では、自分らしい表現をめざして主体的に取り組む。 ③ 子どもたちとともに造形活動を楽しめる感性豊かな保育者を目指す。					
授 業 計 画	第 1 週	授業の主旨説明 出席カードの作成		第 16 週	後期予定・石ころアート	
	第 2 週	スケッチブックに記名（文字のデザイン）		第 17 週	石ころアート	
	第 3 週	造形活動の意義と目的		第 18 週	立体（彫塑）について	
	第 4 週	描画材料について		第 19 週	紙粘土でつくる	
	第 5 週	形のとらえ方と表現		第 20 週	紙粘土でつくる	
	第 6 週	色彩について		第 21 週	紙粘土でつくる	
	第 7 週	色彩について		第 22 週	ポップアップカードの制作（しくみ）	
	第 8 週	見つめて描く		第 23 週	ポップアップカードの制作	
	第 9 週	見つめて描く		第 24 週	ポップアップカードの制作	
	第 10 週	見つめて描く		第 25 週	ポップアップカードの制作・発表	
	第 11 週	身近なものを使って作る（用具・材料について）		第 26 週	版画について	
	第 12 週	身近なものを使って作る		第 27 週	版画	
	第 13 週	身近なものを使って作る		第 28 週	版画	
	第 14 週	身近なものを使って作る・発表		第 29 週	子どもの造形表現について理解	
	第 15 週	前期まとめ		第 30 週	まとめと自己評価	
指導方法 履修上の注意	※ 創作活動が中心となるため、自ら考えて手を動かさない限り何も生まれこない。作品重視ではないが誠実で完成度の高い作品づくりをめざす。提出期日を守る。 ※ 制作に関する用具や材料費は個人負担 ・ 制作用具（スケッチブック、アクリル絵具・筆・パレット）学校で一括購入予定（約 3,000 円） ・ 材料費 年間 500 円（粘土代含む）					
成績評価の方法	作品（40％）、発表（10％）、授業態度（50％）					
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）					
参考文献	必要に応じて案内する。					

授業科目	図 画 工 作		単位数	2	担当教員	市 瀬 恭 子
講義のねらいと概要および到達目標	子どもたちの造形活動を理解し、支援するために必要な造形の基礎技能の習得を目的とする。 1、造形活動を通して感性を磨き、創造活動への関心を深める。 2、美しさやよさを大切に作る気持ち、自発的に取り組む態度を培う。 3、子ども一人ひとりの表現をしっかりと受け止められる保育者になるための実践力を身につける。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション (授業の主旨説明、自己紹介カードの作成)		第16週	工芸、工作 立体表現（彫塑について）	
	第2週	デザイン	レタリングの基礎、活用	第17週	粘土工作 1	
	第3週	デザイン	いろいろな技法1	第18週	粘土工作 2	
	第4週	デザイン	いろいろな技法2	第19週	粘土工作 3	
	第5週	デザイン	まとめ 活用方法	第20週	粘土工作 4	完成、発表
	第6週	描く表現の基礎	(形のとらえ方、描画材料)	第21週	ポップアップカード1 しくみ	
	第7週	描く表現の基礎	(鉛筆デッサン)	第22週	ポップアップカード2 制作	
	第8週	描く表現の基礎	(クレヨン画)	第23週	ポップアップカード3 制作	
	第9週	描く表現の基礎	(色彩について1)	第24週	ポップアップカード4 制作 完成 発表	
	第10週	描く表現の基礎	(色彩について2)	第25週	グループ制作1	造形あそび、壁面構成
	第11週	描く表現の基礎	(観察して描く1)	第26週	グループ制作2	造形あそび、壁面構成
	第12週	描く表現の基礎	(観察して描く2)	第27週	グループ制作3	造形あそび、壁面構成
	第13週	描く表現の基礎	(観察して描く3)	第28週	グループ制作4	造形あそび、壁面構成
	第14週	身近なものに描く 石ころアート1		第29週	子どもの造形表現についての理解	
	第15週	石ころアート2		第30週	まとめと自己評価	
指導方法 履修上の注意	作品重視ではなく、美術が好きになれるよう、分かりやすく、楽しく、身の回りのおもしろさに気づくような授業展開を考えています。自発的、誠実に授業に取り組む態度を望みます。 ※制作に関する用具や材料費は個人負担です。 ・制作用具（スケッチブック、アクリル絵具、筆、パレット）学校で一括購入予定（約 3,000円）。 ・材料費 年間500円（粘土代含む）					
成績評価の方法	レポート（20％）、作品（30％）、発表（10％）授業態度（40％）					
教科書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）					
参考文献	『幼稚園教育要領 保育指針』（チャイルド社）					

授 業 科 目	幼 児 体 育		単 位 数	2	担 当 教 員	茗 井 香 保 里
講義のねらいと概要および到達目標	人生の土台づくりにあたる幼児期に、正しい動き方を身につけたり、運動することの楽しさを味わわせたりすることは、幼児の運動経験や健康生活を豊かに充実させることは本より、これからの超高齢社会を健康に且つ高い質を保って生活するための基礎となる。そこで、本講義では、幼児の発育発達の特性をふまえ、幼児の動きづくりと運動あそびの重要性を理解することを目的とする。 ・ さまざまな遊具の特性を知り、それらを活用した運動遊びが実践できるようにする ・ 巧技台の特性を理解し正しい動き方を身に付ける ・ 目的にあった運動遊びや身体表現活動を開発できるようにする					
授 業 計 画	第 1 週	心と身体の解放		第 16 週	基本の運動	
	第 2 週	「曲線」の身体表現		第 17 週	簡単なルールのある運動あそび	
	第 3 週	「直線」の身体表現		第 18 週	簡単なルールのある運動あそび	
	第 4 週	「曲線」＋「直線」の身体表現		第 19 週	縄を使った運動あそび	
	第 5 週	空間について		第 20 週	縄を使った運動あそび	
	第 6 週	動きのリズムと表現		第 21 週	フープを使った運動あそび	
	第 7 週	イメージと表現		第 22 週	フープを使った運動あそび	
	第 8 週	ビデオ鑑賞		第 23 週	ボールを使った運動あそび	
	第 9 週	作品の創作（１）		第 24 週	ボールを使った運動あそび	
	第 10 週	作品の創作（２）		第 25 週	生活用品を使った運動あそび	
	第 11 週	作品の創作（３）		第 26 週	生活用品を使った運動あそび	
	第 12 週	作品の創作とまとめ（４）		第 27 週	マットを使った運動あそび	
	第 13 週	作品発表会		第 28 週	マットを使った運動あそび	
	第 14 週	作品発表ビデオ鑑賞		第 29 週	リズムカルな運動あそび	
	第 15 週	まとめ		第 30 週	まとめ	
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	出席重視。 体操着を着用のこと。運動靴をはき、裸足、スリッパ履きでは、受講しないこと。 意欲、関心、はプラスポイントとする。					
成績評価の方法	レポート（５０％）、課題（２０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	『生涯健康をめざした運動あそび』（茗井香保里、推敲舎）					
参 考 文 献	『子どもの運動・表現あそび～動きを通して育む心とからだ～』（宮下恭子他、大学図書出版）					

授 業 科 目	子 ど も の 保 健 I		単 位 数	4	担 当 教 員	両 角 理 恵
講義のねらいと概要および到達目標	保育者に必要とされる、子どもの保育保健の基礎知識の習得を目的とする。前期では、乳幼児期の成長・発達及び子どもの心と身体の特性についての理解を深め、子どもが心身ともに健全に育っていけるように援助や健康増進に携わるための基本となる知識の理解を深める。心の健康の特性・援助については、園で気になる子どもとし、より具体的な知識の習得を目指す。後期では、前期で学んだ知識を基礎とし、子どもが罹りやすい病気、感染予防、園でおこりやすい事故、母子保健等について学ぶ。					
授 業 計 画	第 1 週	子どもの健康と保健の意義	第 16 週	子どもの健康状態の把握		
	第 2 週	子どもの身体発育①	第 17 週	体調のよくない子どもへの対応		
	第 3 週	子どもの身体発育②	第 18 週	子どものかかりやすい病気①		
	第 4 週	子どもの運動機能の発達①	第 19 週	感染の予防		
	第 5 週	子どもの運動機能の発達②	第 20 週	子どものかかりやすい病気②		
	第 6 週	子どもの生理機能の発達①	第 21 週	子どものかかりやすい病気③		
	第 7 週	子どもの生理機能の発達②	第 22 週	子どものかかりやすい病気④		
	第 8 週	子どもの生理機能の発達③	第 23 週	子どものかかりやすい病気⑤		
	第 9 週	子どもの感覚器の発達①	第 24 週	子どものかかりやすい病気⑥		
	第 10 週	子どもの感覚器の発達②	第 25 週	子どものかかりやすい病気⑦		
	第 11 週	子どもの精神機能の発達①	第 26 週	子どもの事故①		
	第 12 週	子どもの精神機能の発達②	第 27 週	子どもの事故②		
	第 13 週	子どもの心の健康	第 28 週	保育環境		
	第 14 週	子どもの食と栄養	第 29 週	母子保健と保育		
	第 15 週	まとめ・テスト	第 30 週	まとめ・テスト		
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・テキストを中心に、資料、ワークシート、視聴覚教材等も使用して講義を行う。 ・配布されたプリント類は、ノートに貼る、ファイリングするなど各自で整理しておくこと。 ・授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止。					
成績評価の方法	筆記試験（70％）、授業態度（10％）、レポート（20％）					
教 科 書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅰ』（鈴木美枝子編著：創世社）					
参 考 文 献	随時、資料を配布する。					

授 業 科 目	社 会 福 祉		単 位 数	2	担 当 教 員	志 濃 原 亜 美
講義のねらいと概要および到達目標	この授業では、福祉専門職である保育士が学ぶべき社会福祉の基礎的な知識を習得することをねらいとする。子どもの福祉のみならず、現代社会のニーズに即したあらゆる人々のウェルビーイング（福祉）をいかに実現させるかという視点に立ち広い視野で社会福祉について学ぶ、					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	保育と社会福祉				
	第3週	社会福祉の概念と構造				
	第4週	社会福祉の歴史①（欧米を中心に）				
	第5週	社会福祉の歴史②（日本を中心に）				
	第6週	社会保障制度①				
	第7週	社会保障制度②				
	第8週	社会福祉の法体系				
	第9週	高齢者及び障害者福祉				
	第10週	社会福祉の実施機関と行財政				
	第11週	社会福祉の専門職と倫理				
	第12週	ソーシャルワークの意味と方法				
	第13週	福祉サービスの利用支援と第三者評価				
	第14週	権利擁護と苦情解決				
	第15週	試験とまとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	新聞やニュースなどを通じて社会福祉に関心を持つこと。					
成績評価の方法	筆記試験（60%）、レポート（20%）、課題（10 %）、授業態度（ 10%）					
教 科 書	『保育と社会福祉』（橋本好市・宮田徹編集、(株)みらい）					
参 考 文 献	適宜紹介する。					

授 業 科 目	児 童 家 庭 福 祉		単位数	2	担当教員	志濃原 亜美
講義のねらいと概要および到達目標	児童家庭福祉の歴史の変遷と現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、児童家庭福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。 また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障害のある児童の対応などをはじめとする児童家庭福祉の現状と課題について理解し、特に児童家庭福祉と保育の関連性や児童の権利擁護などについて理解を深める。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	児童家庭福祉の理念と概念				
	第3週	編第社会と児童家庭福祉				
	第4週	児童家庭福祉の歴史の変遷				
	第5週	児童家庭福祉のと保育				
	第6週	児童家庭福祉の制度				
	第7週	児童家庭福祉の法体系				
	第8週	児童家庭福祉と児童福祉施設等				
	第9週	少子化と子育て支援サービス				
	第10週	児童虐待・ドメスティックバイオレンス1				
	第11週	児童虐待・ドメスティックバイオレンス2				
	第12週	障害のある児童への対応				
	第13週	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進				
	第14週	諸外国の動向				
	第15週	定期試験及びまとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して児童家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。					
成績評価の方法	筆記試験（60％）、レポート（20％）、課題（10％）、授業態度（10％）					
教 科 書	『新 保育ライブラリ 児童家庭福祉』（北大路書房）					
参 考 文 献	『最新保育資料集 2014』（ミネルヴァ書房） 参考文献は適宜紹介する					

授 業 科 目	国語教育	単位数	2	担当教員	秋山智美
講義のねらいと概要および到達目標	幼児のことばの能力や想像力、情緒や道徳といったものは初等国語教育で培われる。近年、国語力が低下しているといわれているが、幼児期から国語に触れる機会をできるだけ多く作ることが大切である。よって、保育に携わる者は幼児に対して適切な方法で、自然と国語力が身につくように支援することが重要である。 本講義では、具体的な事例を挙げて幼児に対してどのような国語教育をすべきか、またどのような支援や教材が望ましいかを考える。加えて、小学校国語教育についても触れる。				
授 業 計 画	第1週	ことばの発達①			
	第2週	ことばの発達②			
	第3週	ことばの発達③			
	第4週	教材研究①(班決めと予定)			
	第5週	教材研究②(制作)			
	第6週	教材研究③(制作)			
	第7週	教材研究④(制作)			
	第8週	教材研究⑤(発表)			
	第9週	教材研究⑥(発表)			
	第10週	教材研究⑦(発表)			
	第11週	教材研究⑧(発表)			
	第12週	国語教育の指導①			
	第13週	国語教育の指導②			
	第14週	書くこと、読むことの指導－小学校学習指導要領から			
	第15週	海外の教育事例			
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義と受講者自身で教材研究（絵本や紙芝居の制作）をおこなう。 各自必要な道具(画用紙や色ペン)を準備しておいてほしい。				
成績評価の方法	課題の制作と発表（60％）、授業態度（40％）				
教 科 書	プリントを配布する。				
参 考 文 献	『小学校学習指導要領』（文部科学省、財務省印刷局） その他、授業内で必要に応じて適宜、紹介する。				

授 業 科 目	数	量	教	育	単位数	2	担当教員	中 村 陽 一
講義のねらいと概要および到達目標	幼児の数量や図形に対する興味や関心・感覚は、日常生活の体験を通じて培われる。そのため、幼児が生活体験の中から、自然に数量や図形に対する感覚が身につくような環境と援助が必要である。本講は、具体的事例をもとに、幼児の興味や関心を引き出す環境設定と保育者の役割について考える。また、小学校算数科の概要と幼児教育との連続性についても学ぶ。							
	到達目標							
	1. 子どもがどうやって数を知り興味を持つかを理解する。							
	2. 子どもが生活のなかで数的感覚を身につけるための、適切な環境設定について理解する。							
	3. 小学校算数科の概要を学び、数に対する学び連続性の大切さを理解する。							
授 業 計 画	第1週	子どもと数量環境 ― 幼稚園教育要領に示される数量と図形の取り扱い						
	第2週	保育内容と数量教育 ― 保育内容における数量教育の位置づけ						
	第3週	子どもと数量理解① ― 子どもは数をどのように覚えるか						
	第4週	子どもと数量理解② ― 子どもが生活で出会う数と種類						
	第5週	子どもの生活と遊びのなかの数① ― 3歳児の事例						
	第6週	子どもの生活と遊びのなかの数② ― 4歳児の事例						
	第7週	子どもの生活と遊びのなかの数③ ― 5歳児の事例						
	第8週	小学校算数科の目標と内容① ― 第1学年						
	第9週	小学校算数科の目標と内容② ― 第2学年						
	第10週	小学校算数科の目標と内容③ ― 第3学年						
	第11週	小学校算数科の目標と内容④ ― 第4学年						
	第12週	小学校算数科の目標と内容⑤ ― 第5学年						
	第13週	小学校算数科の目標と内容⑥ ― 第6学年						
	第14週	小学校算数科教育との連続性 ― 幼児の数量教育と小学校算数科の学びの連続性						
	第15週	まとめ ― 授業の振り返りとまとめ						
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・講義を主とするが、必要に応じてビデオ教材や写真等を用いる。 ・「自分ならどうするか」という問題意識を持って授業に臨むこと							
成績評価の方法	筆記試験（70％）、授業態度（30％）							
教 科 書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『小学校学習指導要領』（文部科学省、財務省印刷局）							
参 考 文 献	授業中に紹介する。							

授 業 科 目	子 ど も の 食 と 栄 養		単 位 数	2	担 当 教 員	平山素子・堀 美稚
講義のねらいと概要および到達目標	子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から思春期の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。子ども一人ひとりの心理状態や摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。 授業を通して、自身の望ましい食生活の構築にも取り組んで欲しい。 到達目標：子どもの発育・発達と食生活について理解する 月年齢に見合った適切な食事提供と介助を行う力を身につける					
授 業 計 画	第1週	食べることの意義と栄養・食品の知識				
	第2週	子どもの発育と栄養				
	第3週	乳児期の栄養と食生活 a. 授乳期の栄養と食生活				
	第4週	調理の基本、調乳		・ ・	調理実習 1	
	第5週	b. 離乳期の栄養と食生活		離乳期の特徴と進め方Ⅰ（5,6 か月頃、7,8 か月頃）		
	第6週	〃		・ ・	調理実習 2	
	第7週	〃		離乳期の特徴と進め方Ⅱ（9-11 か月頃、12-18 か月頃）		
	第8週	〃		・ ・	調理実習 3	
	第9週	幼児期の栄養と食生活				
	第10週	お弁当、間食		・ ・	調理実習 4	
	第11週	行事食		・ ・	調理実習 5	
	第12週	児童福祉施設の栄養と食生活				
	第13週	障害をもつ子どもの栄養と食生活				
	第14週	学童期（思春期）の栄養と食生活				
	第15週	妊娠・授乳期の栄養と食生活				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義：教科書・配布資料に基づき、視聴覚教材も取り入れて授業を行う。 実習：デモンストレーションを行った後、班毎に実習を行う。					
成績評価の方法	レポート、筆記試験（60％）、授業態度（40％）					
教 科 書	『子どもの食と栄養』（岡崎光子 編、光生館）					
参 考 文 献	『子どもの食事』（根岸宏邦 著、中央公論新社） 『新版 子どもの食生活・栄養・食育・保育-』（上田玲子 編、ななみ書房）					

授 業 科 目	食 教 育 論		単位数	2	担当教員	平 山 素 子
講義のねらいと概要および到達目標	保育園、幼稚園において積極的に食教育を行うことが求められている。食の営みは生きる力であり、子ども達の食生活を健康的に演出できるかどうかは、大人の意識にかかっている。 子ども達に基本的な食知識を伝え、様々な体験保育を行うための技術を身につけることを目的とする。加えて、保護者へのアプローチの方法を学ぶ。 到達目標：子どもに、食の知識を伝える技術、実践するための技能を獲得する 保護者に、食の重要性を伝え、実践を促すための方法を学ぶ					
授 業 計 画	第1週	食教育の目的と必要性				
	第2週	食教育の方法				
	第3週	小児期の食をめぐる問題を考える	1. 食物アレルギー			
	第4週		2. 欠食			
	第5週		3. 孤食			
	第6週		4. 食習慣			
	第7週		5. 歯磨きと虫歯			
	第8週		6. 咀嚼やく			
	第9週	子どもの発達に即した食教育を考える	1. 食のマナー			
	第10週		2. 食と栄養の知識			
	第11週		3. 偏食			
	第12週		4. 調理保育			
	第13週	保護者への啓発の方法				
	第14週	媒体作成－給食便り				
	第15週	まとめ				
指導方法 履修上の注意	配布資料を用いた授業とともに、食教育教材としての媒体作成等を行う。 授業の中で随時ディスカッションを行うので、積極的に参加して欲しい。					
成績評価の方法	課題（60％）、授業態度（40％）					
教科書	随時、資料を配布する。					
参考文献	『子どもの食事』（根岸宏邦著、中央公論新社） 他、適宜紹介する。					

授 業 科 目	子 ど も の 保 健 Ⅱ		単位数	1	担当教員	両 角 理 恵
講義のねらいと概要および到達目標	小児期は発育・発達の著しい時期であるため、日々の保育や栄養のあり方が子どもの心身の健康に大きな影響を与える。子どもの保健Ⅰで学んだ理論や知識をもとに、実際の保育現場や家庭での育児や看護に必要な実践的技術の習得を行い、保育者の重要な資質である子どもの心身の健康状態を判断できる力の育成をめざしたい。また不慮の事故や子どもの緊急症状に対する対処方法、応急手当、健康教育などの実践能力も養いたい。さらに子どもだけではなく、保育者自身の健康管理についても配慮できる力を身につける。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション、演習準備				
	第2週	子どもの発育・発達の観察と評価①				
	第3週	子どもの発育・発達の観察と評価②				
	第4週	子どもの養護と教育①（だっこ・おんぶ）				
	第5週	子どもの養護と教育②（排泄）				
	第6週	子どもの養護と教育③（衣服の着脱・沐浴）				
	第7週	子どもの生活習慣①（睡眠・排泄）				
	第8週	子どもの生活習慣②（清潔と健康教育）				
	第9週	子どもの心と体の健康づくりのために				
	第10週	体調不良の子どもへの対応①				
	第11週	体調不良の子どもへの対応②				
	第12週	体調不良の子どもへの対応③				
	第13週	子どもと薬、個別の配慮が必要な子どもへの援助				
	第14週	園での安全対策と望ましい保育環境・保育における応急手当				
	第15週	まとめ・テスト				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・講義、実習、グループワークを行う。 ・筆記用具、提示された教材は持参すること。 ・実習は動きやすい服装、エプロン着用で出席し、スリッパ、サンダルは禁止する。 ・グループ内で協力し、全員が積極的に実習に取り組むこと。 ・授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止。					
成績評価の 方 法	筆記試験（５０％）、レポート（２５％）、実技（１０％）、授業態度（１５％）					
教 科 書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健Ⅱ』（鈴木美枝子編著：創世社）					
参 考 文 献	随時、資料を配布する。					

授業科目	家 庭 支 援 論		単位数	2	担当教員	丸山 アヤ子
講義のねらいと概要および到達目標	本科目では、家庭支援における保育者の役割を明確にする。個々の子どもを家庭ごとに理解してその福祉を保障するため、ニーズに応じた支援のできる能力を身に付けることを目的とする。現代社会では、家庭・家族のあり方が大きく変化し、地域における子育て力が弱くなった。そこで、地域での子育て支援の必要性が高くなり、保育所・幼稚園・児童福祉施設の役割がより重要になってきた。家庭・地域・他機関との連携を保ち、家庭支援のできる保育者を養成する。到達目標：家族・家庭についての知識、「家庭支援」の具体的な援助技術を修得し、生じた問題に対応する制度や諸機関の連携についても理解する。					
授 業 計 画	第1週	家庭支援における保育者の役割				
	第2週	家庭支援の意義と機能				
	第3週	地域社会の変容と家庭支援				
	第4週	子育て支援サービスの種類と役割				
	第5週	保育所入所児童の家庭への支援				
	第6週	家庭支援の基本的姿勢と援助技術				
	第7週	子育て相談事例への対応(ロールプレイ)				
	第8週	ひとり親家庭・発達障害児を持つ子ども家庭への理解と対応、援助				
	第9週	子ども虐待への理解と対応、援助と他機関との連携				
	第10週	子育て支援活動の実際を企画する				
	第11週	プログラム型子育て支援サービスの実際：準備(グループワーク)				
	第12週	プログラム型子育て支援サービスの実際(発表①)				
	第13週	プログラム型子育て支援サービスの実際(発表②)				
	第14週	相談事例研究および試験				
	第15週	これまでのまとめ：保育者としての家庭支援				
指導方法履修上の注意	本授業では、家庭支援の在り方を講義するとともに、ソーシャルワーク機能をもつ保育者としての能力を高めるため、ロールプレイ・グループワークを用いた具体的支援方法を指導する。したがって、以下のことが重要である。 ①自ら調べ、研究する姿勢をもって授業に参加すること。 ②グループワークでは、それぞれの役割を尊重し、グループ全員で協力し合うこと。					
成績評価の方法	筆記試験（30％）、レポート（30％）、課題（40％）、					
教科書	『家庭支援論』（編著：溝口元・寺田清美、出版社：アイケイコーポレーション）					
参考文献						

授業科目	相 談 援 助		単位数	1	担当教員	小 室 泰 治
講義のねらいと概要および到達目標	社会生活を営む上で生活上に困難や問題を抱えている人にたいして、その環境の改善を図り、その人が抱えている問題や課題を、相談者自身が主体的に解決できるよう支援していくことが相談援助の目的であることを学ぶ。また、それらをロールプレイやグループワークの技法を用い、事例を通して体験的に学んでいく。 到達目標：相談を受けた場合、地域の社会資源を活用した支援ができることを目標とする。					
授 業 計 画	第 1 週	相談援助とは何かについて理解する。 保育実践の中でなぜ相談援助が必要になったのかを理解する。				
	第 2 週	相談援助の理論と歴史的な流れを学ぶ。 相談援助の定義と原理を理解する。				
	第 3 週	相談援助の基本基本的枠組みについて理解する。 相談援助には、直接援助技術、間接援助技術等があることを学ぶ。				
	第 4 週	相談援助の価値や理念について理解する。 バーステックの援助関係における 7 つの原則を学ぶ。				
	第 5 週	相談援助の援助過程について理解する。 面接の開始から問題解決の終結までの過程を習得する。				
	第 6 週	相談援助を行ううえでの倫理の必要性を学ぶ。 専門職としての倫理綱領を理解する。				
	第 7 週	保育現場における直接援助技術の実際について学ぶ。 保育現場での面接やグループワークの方法について事例をとおして修得する。				
	第 8 週	保育所におけるコミュニティワークのあり方について学ぶ。 地域に根ざした保育所のあり方を探求する。				
	第 9 週	地域社会資源について学ぶ。 事例研究 グループワーク				
	第 10 週	事例研究 グループワーク	相談事例を通して、具体的な相談の受け方と支援のあり方を習得する			
	第 11 週	事例研究 グループワーク	相談事例を通して、具体的な相談の受け方と支援のあり方を習得する			
	第 12 週	事例研究 グループワーク	相談事例を通して、具体的な相談の受け方と支援のあり方を習得する			
	第 13 週	スーパービジョンについて学ぶ。 スーパービジョンには 3 つの機能があることを理解する。				
	第 14 週	相談援助における今後の課題について学ぶ				
	第 15 週	試験およびまとめ				
指導方法 履修上の 注 意	テキストを基本にし、前半は講義をもとに個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）やロールプレイ等援助実践に必要な事項を体験しながら学ぶ。後半は KJ 法やブレインストーミング等の技法を活用し、事例をとおして具体的な援助の在り方を習得するので、積極的な参加と発言ができるよう心掛けること。					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、レポート（20％）、課題（20％）、発表（10％）					
教科書	『保育者のための社会福祉援助技術』（桐野由美子、樹村房）					
参考文献	適宜プリントを配布する。					

授 業 科 目	相 談 援 助		単位数	1	担当教員	齋 藤 新 一
講義のねらいと概要および到達目標	相談援助を行なう上で必要なソーシャルワーク(ケースワーク・グループワーク)について学ぶ。具体的には、保育とソーシャルワークのかかわり、対人援助の方向性を示す価値、クライアントとの援助関係の形成を図るバイスティックの7原則、相談援助の各展開過程の内容、相談援助面接方法(ロールプレイ)、グループの人と人との相互作用の働きによって個人の課題解決を図るグループワーク、総合的事例分析により実践的相談援助の実際等について学習していく。					
授 業 計 画	第1週	ガイダンス 相談援助の意義と機能、価値				
	第2週	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークと保育				
	第3週	相談援助の原理				
	第4週	相談援助の理論				
	第5週	個別援助技術の定義と原則①				
	第6週	個個別援助技術の定義と原則②				
	第7週	個別援助技術の定義と原則③				
	第8週	個別援助技術の展開過程				
	第9週	相談援助面接技法				
	第10週	演習:相談援助面接技法の実際(ロールプレイ)				
	第11週	演習:総合的事例分析(母子家庭への援助)				
	第12週	集団援助技術の定義と原理・原則				
	第13週	集団援助技術の構成要素と展開過程				
	第14週	社会資源としての関係機関との連携				
	第15週	試験およびまとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	保育士としての相談援助業務を行なう上で、必要不可欠な専門的知識と技術です。対象者に、より良い支援が行えるようにしっかり身につけてください。授業内容の理解度について、各授業内でレポート提出があります。このレポートは成績評価の対象となりますので、欠席には十分注意してください。					
成績評価の方法	筆記試験（40％）、各授業内レポート（40％）、学ぼうとする授業態度（20％）					
教 科 書						
参 考 文 献	『相談援助』（小林育子他2名、萌文書林）、『演習・保育と相談援助』（監修:前田敏雄、編集:佐藤伸隆・中西遍彦、みらい）、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していきます。					

授 業 科 目	保 育 相 談 支 援		単位数	1	担当教員	小 室 泰 治
講義のねらいと概要および到達目標	保護者に対する保育相談支援の意義について学び、保護者支援の方法や保護者との信頼関係の重要性について理解する。また、保育相談の事例をとおして自己覚知、他者理解の重要性を習得する。 到達目標：保育園や幼稚園での現場で保護者からの相談に応じ、適切な支援ができる技術を習得することを目標とする。					
授 業 計 画	第 1 週	保育相談とは何かについて理解する。 保育相談の意味や意義について学ぶ				
	第 2 週	保育相談支援の原理について学ぶ。				
	第 3 週	保育相談支援の展開と相談援助の関係について学ぶ。				
	第 4 週	保護者の養育能力の向上に質す支援について学ぶ。				
	第 5 週	子育て家族の生活課題について学ぶ。 孤立化した子育ての現状の解決策と子育て支援センターの役割について学ぶ				
	第 6 週	児童虐待への支援について学ぶ。 事例を通して、児童虐待の防止策と支援のあり方について学ぶ				
	第 7 週	援助者になるための自己覚知について学ぶ				
	第 8 週	援助者になるための他者理解について学ぶ。 事例研究				
	第 9 週	保護者との信頼関係を築くための受容と自己決定の尊重について学ぶ。				
	第 10 週	保育相談の評価と方法について学ぶ。				
	第 11 週	地域の関係機関との連携について学ぶ				
	第 12 週	保育相談支援の特性について学ぶ。 事例研究 相談事例を通して傾聴の重要性を習得する				
	第 13 週	保育相談実践事例から学ぶ。 事例研究				
	第 14 週	児童福祉施設における保育相談支援 障害児をもつ保護者への支援				
	第 15 週	試験およびまとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	事例研究ではグループ討議を行い、その結果を発表する。従って積極的に発言ができるよう心掛けること。					
成績評価の方法	筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、課題（２０％）、発表（１０％）					
教 科 書	『保育相談支援』（小田豊監修・吉田ゆり・若本純子・丹羽さかの編著、光生館）					
参 考 文 献	適宜プリントを配布する。					

授 業 科 目	保 育 相 談 支 援		単位数	1	担当教員	齋 藤 新 一
講義のねらいと概要および到達目標	保育士は児童の保育のみでなく、児童の保護者支援も業務となっている。保育相談支援とはどのようなものか、何故、保育相談支援が必要なのか、保育相談支援はどのような技術を用いて、またどのように展開して行なっていくのか。保育相談支援の援助内容と方法、及び支援を行った後の自分たちの保護者支援の効果測定・評価方法についても事例を通して学習していく。					
授 業 計 画	第1週	ガイダンス 保護者に対する保育相談支援の意義と原則				
	第2週	保育士の業務と保育相談支援				
	第3週	保育と保育相談支援の相互関連性 保育相談支援の限界 保育相談支援の展開過程				
	第4週	保育相談支援の基本(子どもの最善の利益・子どもの成長とともに喜ぶ共感・保護者の養育力の向上等)				
	第5週	保育相談支援の場面と手段				
	第6週	保育相談支援の実際 1(演習:保育相談支援の方法と技術)				
	第7週	保育相談支援の実際 2(演習:保育相談支援の方法と技術)				
	第8週	保育相談支援の実際 3(演習:保育相談支援の方法と技術)				
	第9週	保育相談支援の実際 4(演習:環境を通じた保育相談支援)				
	第10週	保育相談支援の実際 5(演習:記録技法)				
	第11週	保育相談支援の実際 6(演習:記録技法)				
	第12週	保育相談支援の実際 7(演習:評価方法)				
	第13週	児童福祉施設における保育相談支援の実際(演習)				
	第14週	カンファレンスの意義と方法				
	第15週	試験およびまとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	授業はグループ討議により進めていく予定です。各学生の積極的なグループ討議参加を求めるとともに、その授業内容の理解度について、各授業内でレポート提出があります。このレポートは成績評価の対象となりますので、欠席には十分注意してください。					
成績評価の方法	筆記試験（４０％）、各授業内レポート（４０％）、学ぼうとする授業態度（２０％）					
教 科 書						
参 考 文 献	『保育相談支援』（柏女霊峰・橋本真紀、ミネルヴァ書房）、『保育相談支援』（小林育子、萌文書林）、『保育所における家庭支援』（金子恵美、全国社会福祉協議会）、『保育所保育指針解説書』（ひかりのくに）、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していきます。					

授 業 科 目	教 育 原 理		単位数	2	担当教員	松 木 久 子
講義のねらいと概要および到達目標	教育や学校を単純に事象的そして経験的にのみとらえるのではなく、より本質的に「教育」や「学校」を理解するために必要な基礎的知識や考え方を習得することを基本的な目標とします。なぜ教育が必要か・女性と子どもにとって教育とは何か・幼稚園や保育所（園）がどのように成立してきたかについてより理解を深め、自分なりの教育観を形成し主体的に教育について考えていく力を身に着けていけるよう指導します。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション：講義の受け方と諸注意				
	第2週	教育を受けられることは普通のことか				
	第3週	教育とは何か：教育の語義				
	第4週	教育とは何か：教育の意義				
	第5週	人間の特質：教育の可能性と限界				
	第6週	教育の歴史：学校の誕生とその歩み				
	第7週	近代学校の成立と性格：誰もが通える学校とは				
	第8週	教育制度：学校制度の発達				
	第9週	教育制度：戦後における改革の動向				
	第10週	幼稚園と保育所の誕生				
	第11週	幼稚園と保育所の歩み				
	第12週	教育の内容と方法				
	第13週	教育の評価：意義と方法				
	第14週	教育の経営：学級経営、学校経営				
	第15週	試験およびこれまでのまとめ				
指導方法履修上の注意	教育を受けられることは普通のことなのか等、今まで常識とってきたことを、大いに疑ってほしいと思います。また、子どもを取り巻く環境について考えを深めるために、日々ニュースや新聞に接するようにしてください。また専門用語などについて、図書館を利用するなどして、積極的そして主体的に学ぶ態度をもってほしいと思います。特に、文字の読み書きには十分に慣れる必要があります。					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、レポート（25％）、授業態度（25％）					
教科書	保育者養成シリーズ『教育原理』					
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。					

授 業 科 目	保	育	原	理	単位数	2	担当教員	金村 美千子
講義のねらいと概要および到達目標	子どもの健全な心身の発達を図るためには、子どもへの愛情だけでは不十分であって、専門的な知識や技術を身につけた保育者が、正しい保育観のもとに、子ども一人一人の特性に応じた指導をしなければならない。そのために、本科目の到達目標は、次の3点とする。 ①保育についての基本的な知識や考え方を身につける。 ②保育形態について理解をする。 ③外国人の子どもの保育をするうえでの留意点を理解する。							
授 業 計 画	第1週	「幼稚園」と「保育所」の制度						
	第2週	「認定こども園」の制度						
	第3週	保育内容						
	第4週	保育形態（1）年齢別保育						
	第5週	保育形態（2）縦割り保育・混合保育						
	第6週	保育形態（3）解体保育・統合保育						
	第7週	保育形態（4）自由保育						
	第8週	保育形態（5）一斉保育・設定保育						
	第9週	教育課程・保育課程						
	第10週	指導計画						
	第11週	外国人の子どもの保育						
	第12週	病児保育（1）歴史						
	第13週	病児保育（2）実践						
	第14週	試験・まとめ						
	第15週	まとめ						
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	1. 風邪を引いているときには、必ずマスクをすること。 2. オープンキャンパス等で教室変更があると授業内容の変更をする場合がある。 3. 学生の私語は、授業を進めるうえで教師にとっても勉強熱心な学生にとっても迷惑である。学生は、このことをしっかり頭に入れて授業に出てもらいたい。							
成績評価の 方 法	筆記試験（ 100 %） ※筆記試験で50点未満の場合には、毎授業時に提出された「授業のまとめ」を評価して10点以下の範囲で加点する。							
教 科 書	『保育原理―保育者になるための基本―』（金村美千子編、同文書院）							
参 考 文 献								

授業科目	教 育 心 理 学		単位数	2	担当教員	大 谷 智 子
講義のねらいと概要および到達目標	幼児教育において、人間の“記憶や学習のメカニズム”について理解を深めることは重要である。本講義では、こどもの発達、記憶と学習、動機づけ等いくつかの領域に焦点を絞り、保育の現場において重要な教育心理学の基礎的知識を習得することを到達目標とする。この講義をきっかけに、各人が教育方法や幼児に対する理解・考え方を深めてもらいたい。					
授 業 計 画	第1週	ガイダンス、導入 担当講師の自己紹介と講義の進め方、なぜ教育心理学を学ぶ必要があるのかについて解説する。				
	第2週	こどもの発達とは 各発達段階の特徴およびピアジェの認知発達理論、ピゴツキーの発達の最近接領域について学ぶ。				
	第3週	こどもの心の理解 「こころ」とは何か。愛着、こころの理論を通して考える。				
	第4週	気づくこと 視覚的注意とは何か、どういうメカニズムで人は注意を向けるのか。保育の視点から注意について考える。				
	第5週	覚えること 記憶のしくみについて概観する。身近な例や簡単な記憶実験を通じ、記憶の種類について学ぶ。				
	第6週	忘れること なぜ忘却が起こるのか、記憶と忘却のメカニズムについて学ぶ。また、健忘症などの症状について触れる。				
	第7週	学ぶこと 記憶の側面から、どうすれば記憶し続けられるか考える。				
	第8週	教えること 心理学における学習について学ぶとともに、行動の側面から、学習の方法について考える。				
	第9週	やる気のメカニズム、やる気はどうやって高まるのか 動機づけについて説明し、どうすればやる気を育むことができるのか考える。				
	第10週	問題解決をすること 学習分野における問題の解決方法について学ぶ。				
	第11週	こどもを取り巻く人間関係 仲間関係を通じて養われる社会性や道徳性について学ぶ。				
	第12週	学級集団 学級集団における行動や発生しやすい問題について学び、よりよい学級作りについて考える。				
	第13週	個人差とは 知能やパーソナリティについて学ぶ。				
	第14週	教育評価 学力の測定と評価について学び、評価の多様性についても考える。				
	第15週	試験・まとめ				
指導方法 履修上の 注 意	授業毎に考えたことを小レポート（課題）として書いてもらう予定である。					
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、課題（30％）、授業態度（10％）					
教 科 書	特になし。					
参 考 文 献	その都度紹介する。					

授 業 科 目	教 育 心 理 学		単位数	2	担当教員	大熊 美佳子
講義のねらいと概要および到達目標	幼児教育において、子どもの発達や学習過程を理解し、子どもへの対応を考えることは非常に重要である。本講義では、教育に関わる子どもの発達、学習のメカニズム、動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得することを目的とする。 到達目標 ①教育心理学の基本用語を正確に理解する，②子どもの発達や行動を理解するために必要な心理学的視点の基礎を身につける，③教育者として必要な心理学的な関わり方を学ぶ					
授 業 計 画	第1週	教育心理学とは ガイダンスと導入として教育心理学を学ぶ意味，子どもにとって教育とは何かを考える。				
	第2週	子どもの発達① 発達とは何か				
	第3週	子どもの発達② 発達過程について				
	第4週	子どもの発達③ ピアジェの認知発達理論，ヴィゴツキーの最近接領域などの発達理論について				
	第5週	学習理論① 学習とは何か				
	第6週	学習理論② 条件づけ				
	第7週	学習理論③ 社会的学習理論について				
	第8週	子どものやる気① 動機づけ理論について				
	第9週	子どものやる気② 意欲と無気力				
	第10週	子どものやる気③ 褒めること，叱ること				
	第11週	子どもの個性を理解する① パーソナリティ理論				
	第12週	子どもの個性を理解する② 知能について				
	第13週	教育方法① 教授方法について				
	第14週	教育方法② 評価について				
	第15週	試験・まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義形式で行う。 将来教育現場で子どもに関わるために必要な知識を身につけるために，講義の内容を具体的にイメージしながら理解を深めて欲しい。					
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）					
教 科 書	特になし。					
参 考 文 献	講義の中で適宜紹介する。					

授 業 科 目	保 育 者 論		単位数	2	担当教員	松 木 久 子
講義のねらいと概要および到達目標	保育者として知らなければならない基本的な事柄や実習に向けての態度形成、さらに保育者が担っている役割の範囲と負っている限界、そしてその克服という問題について理解することを目指します。幼稚園や保育所の相違点や共通点・保育をめぐる諸問題・保育をめぐる様々な考え方等を具体的に理解することができる内容を提供し指導していきます。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション：講義の受け方と諸注意				
	第2週	現代の子どもと学校、教師				
	第3週	保育者という仕事の実態				
	第4週	日本の教職の特質				
	第5週	指導と懲戒：進級をめぐる日本特有の問題				
	第6週	指導と懲戒：体罰をめぐる事情				
	第7週	幼稚園教諭と保育士の類似点と相違点				
	第8週	幼稚園教諭の仕事の実態(1)				
	第9週	幼稚園教諭の仕事の実態(2)				
	第10週	幼稚園教諭の仕事の実態(3)				
	第11週	教師像の変遷				
	第12週	保育者としての服務と望ましい資質				
	第13週	子どものしつけをめぐる問題(1)				
	第14週	子どものしつけをめぐる問題(2)				
	第15週	試験およびこれまでのまとめ				
指導方法 履修上の注意	授業形態は講義形式が中心となりますが、より具体的な幼稚園教諭・保育士としてのイメージをもつために、時折映像を活用した授業も展開します。その際には、自分自身の保育者像を創造するためにも、メモを細かく取るなど真剣に取り組んでほしいと思います。専門用語などについて図書館等を利用するなどして、積極的そして主体的に学ぶ態度を形成してください。特に、文字の読み書きについては、日常的に慣れておく必要が大いにあります。					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、レポート（25％）、授業態度（25％）					
教科書	保育者養成シリーズ『教育原理』					
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。					

授 業 科 目	社 会 的 養 護		単位数	2	担当教員	佐 藤 千 代 子
講義のねらいと概要および到達目標	年々増加傾向にある社会的養護を必要とする子どもたちの背景、社会的養護の法制度や体系、援助を行う機関や施設、児童の権利擁護、専門職の役割、援助者として必要な視点などについて理解を深める。また、以上のことを通じて社会的養護の現状と課題について学ぶ。 ・社会的養護と児童家庭福祉との関係を理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系を理解する。 ・社会的養護の実際、課題と展望を理解する ・援助者として必要な視点を理解する。					
授 業 計 画	第 1 週	現代社会における社会的養護の意義				
	第 2 週	社会的養護の歴史的変遷				
	第 3 週	社会的養護と児童家庭福祉				
	第 4 週	児童養護の体系				
	第 5 週	児童の権利擁護と社会的養護①				
	第 6 週	児童の権利擁護と社会的養護②				
	第 7 週	社会的養護の制度と法体系				
	第 8 週	社会的養護の仕組みと実施体制				
	第 9 週	家庭養護と施設養護				
	第 10 週	施設養護の基本原理				
	第 11 週	施設養護の実際 ―養護系施設―				
	第 12 週	施設養護の実際 ―非行系施設―				
	第 13 週	施設養護の実際 ―障害系施設―				
	第 14 週	施設養護とソーシャルワーク				
	第 15 週	試験・まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	テキストを中心にプリント、資料等を使って講義を行う。わからない点があれば、積極的に質問すること。 複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出を求める。 プリントは、ファイルにきちんと保管すること。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。					
成績評価の方法	筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	『新保育士養成講座 第５巻 社会的養護』（新保育士養成講座編纂委員会編、全国社会福祉協議会）					
参 考 文 献	適宜紹介する					

授 業 科 目	発 達 心 理 学		単位数	2	担当教員	川 田 三 夫
講義のねらいと概要および到達目標	到達目標は、①各発達段階の内容、特徴を理解する、②各年齢に応じた指導、援助について理解する、の2つになる。 時代と共に社会が変わり、親の考え方等も変化してきている。今の子どもが育つ環境を考えながら、保育の方法、保育者の在り方についても考えてみる。 例えば少子化で、子どもが大勢で外で遊ぶことが少なくなり、反面、ゲーム等で室内で遊ぶことが増えた。こういった状況の変化が、子どもの内面形成、社会性の発達にどのような影響を与えるのかといったことを考えてみる。					
授 業 計 画	第1週	発達とは（遺伝と環境、成熟と学習、刻印づけ、ハーロウの実験、生理的早産、など）				
	第2週	発達段階（乳児、幼児、児童の各段階、主な発達課題、0歳児の発達、など）				
	第3週	年齢別の発達（1歳児の発達）				
	第4週	年齢別の発達（2歳児の発達）				
	第5週	年齢別の発達（3歳児の発達）				
	第6週	年齢別の発達（4歳児の発達）				
	第7週	年齢別の発達（5・6歳児の発達）				
	第8週	思考の発達①（ピアジェを中心に、自己中心性、アニミズム、など）				
	第9週	思考の発達②（ピアジェ：感覚運動、前概念、直観の各思考、均衡化理論、など）				
	第10週	言葉の発達（言葉の機能、内言と外言、喃語・初語・片言、一語文、など）				
	第11週	描画の発達（各発達段階、描写上の特徴と問題点、色の問題、など）				
	第12週	自己概念の発達（自我・パーソナリティ等に関連する理論、フロイト、エリクソン、など）				
	第13週	知覚の発達（知覚と認知、体制化、感情や欲求の影響、など）				
	第14週	情動の発達（情動の分類、ブリッジスの年齢別発達、かんしゃく、嫉妬、など）				
	第15週	発達障害、試験（自閉、多動、知的障害、知能検査など。筆記試験）				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	(1) レジメを基本とし、資料（印刷、DVD・BD等）の提示、板書を併用する。 (2) 発達、保育関連の話題、本、記事等を資料として紹介する。 (3) 授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上退出させる。					
成績評価の方 法	筆記試験（100%） 授業4回毎に小試験を行う（配点は20点～30点）。合計4回で100点満点になる。					
教 科 書	ない。					
参 考 文 献	講義の時に紹介する。					

授 業 科 目	保 育 の 心 理 学		単位数	1	担当教員	川 田 三 夫
講義のねらいと概要	保育の実践にかかわる発達心理学の基本的な内容は前学期に学修している。ここでの到達目標は、①演習的な学修を通して理解を深める・広げる、②種々の技法を高める、の2つである。 まず基本となる幼児期の年齢別発達内容を理解する。発達に関わる環境、家族関係、交遊関係等のテーマで演習的に学修を深める。 また、個々の発達領域＝身体・運動、情緒、知覚・認知、言葉、知的能力・思考、遊び、社会性、人格、道徳性、発達障害、測定・評価の方法等のテーマで演習的に学修する。					
授 業 計 画	第1週	発達理論、発達観、児童観、保育観などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第2週	発達段階(発達過程)、各段階の特徴、子どもの心理などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第3週	身体・運動の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第4週	情緒の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第5週	知覚・認知の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第6週	言葉の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第7週	知的能力・思考の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第8週	遊びの発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第9週	友だち関係、社会性の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第10週	人格の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第11週	道徳性の発達、今日的な問題や課題などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第12週	発達障害、保育現場での関わり方などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第13週	測定・評価(理論、各種テストなど)などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第14週	子ども理解と保育実践[PDCA]などのテーマ（説明、発表、質疑、など）				
	第15週	これまで学修したテーマの幾つかについての振り返り（説明、発表、質疑、など）				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	(1)グループ発表、質疑、不十分の場合はまとめのレポートという形で行う。 (2)レジメの作成、説明の仕方→質疑など、考える、発表する力の育成を基本にする。 (3)発表側、聞く側、双方に積極的な参加意識を要求する。					
成績評価の方 法	毎回、グループ発表毎に4段階評価をつけ、明示する。 各グループは4回発表する。4回分の総合評価になる。(100%) 上記の観点から質疑等で若干のプラス、マイナス等の個別評価を加える。					
教 科 書	ない。					
参 考 文 献						

授 業 科 目	教 育 社 会 学			単位数	2	担当教員	小 堀 哲 郎
講義のねらいと概要および到達目標	教育社会学は、現代社会と密接な関係にある〈教育〉というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。特に、この講義では、保育者を目指す学生に対して、毎回具体的な〈保育〉や〈子ども〉に関する話題を取り上げるので、現代の子どもが置かれている状況に理解を深めてほしいと思う。今年度は「地域」と「子ども」の関係を中心に講義する。 ① 子どもが置かれている現代の社会状況を理解する。 ② 社会的存在としての子どもを多面的に理解する。 ③ 社会学的思考を身につける。						
授 業 計 画	第1週	地域（社会・文化）に生きる（育つ）子どもたち					
	第2週	地域社会の人間関係					
	第3週	ファミリーサポートセンター					
	第4週	子ども会					
	第5週	学童保育					
	第6週	地域スポーツ					
	第7週	三世代交流－新しい地域社会のために					
	第8週	三世代交流－見えてきた課題					
	第9週	生活科・総合的学習					
	第10週	PTA 活動					
	第11週	人生儀礼からみた子どもの成長					
	第12週	祭囃子の伝承					
	第13週	寝屋制度					
	第14週	子どもの貧困					
	第15週	試験・まとめ					
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	○ 講義を中心に進める。 ○ 遅刻・早退は3回につき1回の欠席とし、授業回数の3分の2以上の出席がない場合には、期末試験を受けることができない。 ○ 毎回の授業終了時に 500 字程度の「授業内レポート」を作成し、評価に算入する。						
成績評価の方法	筆記試験（60％）、毎回の授業時に行うレポート（40％）						
教 科 書	『(仮) 地域に生きる子どもたち』（小堀哲郎編著、創成社）						
参 考 文 献	授業中に適宜紹介する。						

授 業 科 目	臨 床 心 理 学	単位数	2	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要および到達目標	臨床心理学は応用心理学の一つである。臨床心理学は心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。 現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようとしたり、心の問題に向き合おうとしたりするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。 本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で活用できる臨床心理学の実践的能力の育成を目標とする。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。				
授 業 計 画	第1週	1. イントロダクション 臨床心理学とは何か			
	第2週	ロールプレイによる実習			
	第3週	2. 臨床心理学の心の捉え方と心理療法 精神分析			
	第4週	行動主義			
	第5週	人間性心理学			
	第6週	3. 心の発達			
	第7週	4. 心と脳			
	第8週	5. 心理アセスメント			
	第9週	6. 心の問題の理解と対応			
	第10週	7. 子どもの心の問題			
	第11週	8. 発達障害			
	第12週	9. 心の病気			
	第13週	10. 家庭支援と他者・他機関との連携			
	第14週	11. 保育者自身のメンタルヘルスを考える 臨床心理学の理論の活用			
	第15週	まとめと前期試験			
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。その他、ビデオ視聴で理解を深め、ロールプレイ等も取り入れて、臨床心理学の体験的な学習もおこないたい。 受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。				
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（40％）				
教 科 書	『事例で学ぶ 保育のための相談援助・支援～その方法と実際～』（須永進[編著]、同文書院）				
参 考 文 献	他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介する				

授 業 科 目	臨 床 心 理 学	単位数	2	担当教員	今 水 豊
講義のねらいと概要および達成目標	保育園や幼稚園において相談のニーズが増える昨今、先生が子どもや保護者を理解し、良好な援助関係を築くために、臨床心理学は有用な分野である。臨床心理学とは、心理的問題に悩む人を援助するための学問である。いわば、心の問題を抱えている人の痛みを共有し、援助に活かす試みである。授業では、心理的問題のとらえかたや心理療法の実際について論理的・実践的に学ぶことによって、心の痛みを共有することを目的とする。本科目では、・臨床心理学的な育ちの理解・精神的障害の理解・心理療法の理解・自身の課題の把握 を到達目標とする。				
授 業 計 画	第1週	Ⅰ 臨床心理学とは何か			
	第2週	Ⅱ 自他を認めるグループワーク			
	第3週	Ⅲ 心の発達 社会心理的発達			
	第4週	Ⅲ 心の発達 親子関係の発達			
	第5週	Ⅳ 心理アセスメント アセスメントとは何か			
	第6週	Ⅳ 心理アセスメント アセスメントの体験			
	第7週	Ⅳ 心理アセスメント 自己を分析する			
	第8週	Ⅴ 心理的問題 うつ病			
	第9週	Ⅴ 心理的問題 不安障害			
	第10週	Ⅴ 心理的問題 統合失調症			
	第11週	Ⅵ 心理療法の実際 精神分析			
	第12週	Ⅵ 心理療法の実際 来談者中心療法			
	第13週	Ⅵ 心理療法の実際 認知行動療法			
	第14週	Ⅵ 心理療法の実際 ストレスマネジメント			
	第15週	筆記試験・まとめ			
指導方法 履修上の注意	講義形式の他に、体験的な学習も行う。 援助場面では、人の話に耳を傾け、その心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも、授業をしっかり聞き、理解するという構えを求める。				
成績評価の方法	筆記試験（５０％）、課題（３０％）、授業態度（２０％）				
教科書	適宜、資料を配布する。				
参考文献	授業にて適宜紹介する。				

授 業 科 目	情 報 機 器 利 用		単位数	1	担当教員	金 宰 郁
講義のねらいと概要および到達目標	本科目では、幼児教育における「教育の方法及び技術」について、基礎的な理論と教育の方法を支援する情報機器（コンピュータ）そして教材の活用について理解を図ります。 具体的には、以下のとおりです。 ①教育の方法、指導方法及び教育課程の原則について、その基本を理解すること。 ②情報機器及び教材の活用について、具体的な機器の学習を通じて理解すること。					
授 業 計 画	第 1 週	この授業科目に関するガイダンス				
	第 2 週	表計算ソフト「Excel」の基礎(1)：基本操作（文字入力等）、文書の保存・読込み、その他				
	第 3 週	表計算ソフト「Excel」の基礎(2)：ワークシートの編集、ワークシートの書式設定、その他				
	第 4 週	表計算ソフト「Excel」の基礎(3)：簡単な数表の作成、数値データ・文字データの相違、データの編集（挿入・削除・移動）、編集シートの調整（セルの幅・高さの変更、罫線の付加など）、その他				
	第 5 週	表計算ソフト「Excel」の基礎(4)：グラフの作成				
	第 6 週	表計算ソフト「Excel」の基礎(5)：グラフの設定の変更 1				
	第 7 週	表計算ソフト「Excel」の基礎(6)：グラフの設定の変更 2				
	第 8 週	「Excel」の応用(1)：セル番地の絶対参照と相対参照				
	第 9 週	「Excel」の応用(2)：関数の利用 1（IF 関数など）				
	第 10 週	「Excel」の応用(3)：関数の利用 2				
	第 11 週	「Excel」の応用(4)：関数の利用 3				
	第 12 週	「Excel」の応用(5)：データ処理の応用 1				
	第 13 週	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用 2				
	第 14 週	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用 3				
	第 15 週	「Excel」の応用(7)：実践データの処理				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	本授業では、教育の方法、指導方法及び教科課程の基本原則を講義するとともに、情報機器を用いた具体的な指導を行います。したがって、 1) 教育方法とその技術との関連を実際的にとらえられるよう、積極的に授業に参加すること。 2) 情報機器を用いて、その活用を身に付けるには、かなりの努力を必要とします。予習・復習を怠らず頑張ってください。 3) 課題が出題された場合、担当教員の指示する提出方法および提出期限を厳守すること。					
成績評価の方法	課題（40％）、発表（20％）、授業態度（40％）					
教 科 書	『文系学生のための情報活用』（共立出版）					
参 考 文 献	『Windows Vista 対応 30 時間でマスター：Excel 2007』（実教出版） 『30 時間でマスター Word&Excel 2007』（実教出版編修部、実教出版）					

授 業 科 目	情 報 機 器 利 用		単位数	1	担当教員	榎 本 功 子
講義のねらいと概要および到達目標	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。本講ではまず、エクセルによるさまざまな文書や表計算のスキルを習得するとともに、より高度な文書作成スキルを身につける。					
授 業 計 画	第1週	簡単な表作成。				
	第2週	連絡名簿を作る。				
	第3週	便利な機能オートフィルを学ぶ。				
	第4週	円グラフや棒グラフの作成				
	第5週	カレンダーを作る（クリップアート、オートシェイプの活用）				
	第6週	デジカメや携帯で写真を撮り、パソコンに取り込み、保存する。				
	第7週	パソコンで簡単に写真を修正・加工する。その写真をエクセルに取り込む。				
	第8週	シートのコピーを学ぶ。				
	第9週	シートをまたいだコピーなどについて学ぶ。				
	第10週	表計算のしかた。				
	第11週	引き算、掛け算、割り算など。				
	第12週	簡単な関数の使い方。				
	第13週	住所録の作成①				
	第14週	住所録の作成②				
	第15週	便利なアプリケーションソフトについて。				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。					
成績評価の方法	課題（70％）、授業態度（30％）					
教 科 書	授業に合わせたプリントを配布予定。					
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	佐藤 千代子
講義のねらいと概要および到達目標	障害児保育とは何か、その概要を学ぶとともに、子どもの抱えるさまざまな障害について、その特性や支援の方法を理解し、適切な支援ができる力を身につける。さらに保護者への支援、地域や学校との連携について学ぶ。 ・ 障害児保育の歴史的変遷、制度や法律を理解する。 ・ 障害児保育の対象となるさまざまな障害について理解する。 ・ 保護者への支援、地域、学校との連携について学ぶ。 ・ 障害児保育の現状と課題について理解する。					
授業計画	第1週	ガイダンス 障害児保育について		第16週	視覚障害の理解	
	第2週	障害児保育の歴史と変遷		第17週	聴覚障害の理解	
	第3週	障害児保育に関する制度		第18週	障害児保育における保育の計画 ①	
	第4週	障害児保育に関する法規		第19週	障害児保育における保育の計画 ②	
	第5週	知的障害の理解 ―診断基準、原因―		第20週	障害児保育との触れ合いの事例 ①	
	第6週	知的障害児の対応		第21週	障害児保育との触れ合いの事例 ②	
	第7週	肢体不自由の理解と対応		第22週	保育における連携の取り方	
	第8週	注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解		第23週	保護者を支援する ①	
	第9週	注意欠陥多動性障害児への支援のポイント		第24週	保護者を支援する ②	
	第10週	学習障害（LD）の理解		第25週	地域との連携	
	第11週	学習障害児への支援のポイント		第26週	小学校への接続と連携	
	第12週	自閉症の理解		第27週	心理検査による子どもの理解	
	第13週	自閉症児への支援のポイント ①		第28週	心理検査による子どもの理解	
	第14週	自閉症児への支援のポイント ②		第29週	障害児保育の現状と課題	
	第15週	試験・まとめ		第30週	試験・まとめ	
指導方法 履修上の注意	教科書を中心に、プリントやDVDなどを使用してできるだけわかり易い講義を行う。 わからない点については、そのままにしないで、どしどし質問すること。 複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出を求める。 ボランティアなどに参加し、日ごろから障害児（者）に関わる機会をもってほしい。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、レポート（20％）、授業態度（30％）					
教科書	『保育士養成課程 障がい児保育』（小田 豊 監修 栗原泰子・野尻裕子 編著 光生館）					
参考文献	適宜紹介する					

授 業 科 目	障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	齋 藤 新 一
講義のねらいと概要および到達目標	障害種別による障害児の障害特性と環境要因による行動特性の違い、障害児の基本的身近自立技能の獲得方法、TEACCHプログラムの考え方をういた自閉症児の支援方法、障害児の問題行動の捉え方やその改善方法については、応用行動分析の考え方をベースにして演習形式により実践的な学習をしていきます。また、保育所だけでは障害児のニーズを十分に満たすことはできないことがあり、専門機関との連携・協力は不可欠となっています。地域にある専門機関とその業務内容等についても学習していきます。					
授 業 計 画	第1週	ガイダンス(学習の狙い、学ぶべき内容)		第16週	学習障害児の理解と保育	
	第2週	現在の子育て事情の現状		第17週	注意欠陥多動障害児の理解と保育	
	第3週	保育現場で出会う「気になる子」		第18週	演習: 障害児の問題行動の理解	
	第4週	障害児保育の仕組み①		第19週	演習:障害児の問題行動に対する対処方法①	
	第5週	障害児保育の仕組み②		第20週	演習: 障害児の問題行動に対する対処方法②	
	第6週	知的障害児の理解と保育		第21週	演習: 障害児の問題行動に対する支援方法立案	
	第7週	ダウン症の理解と保育		第22週	障害を持っていけることを考える	
	第8週	演習:基本的身辺自立技能習得支援の実際①		第23週	家族支援(家族に寄り添う)	
	第9週	演習: 基本的身辺自立技能習得支援の実際②		第24週	児童関係専門機関との連携①	
	第10週	自閉症児の理解と保育①ビデオ		第25週	児童関係専門機関との連携②	
	第11週	演習:自閉症児の理解と保育②		第26週	就学に向けての学校教育との連携	
	第12週	演習:自閉症児の理解と保育③物理的構造化		第27週	演習:実践で学ぶインシデントプロセス法	
	第13週	演習:自閉症児の理解と保育④視覚的構造化		第28週	演習:総合的事例検討	
	第14週	前期まとめ		第29週	後期まとめ	
	第15週	前期試験と解説など		第30週	後期試験と解説など	
指導方法 履修上の 注 意	授業は演習形式中心で進めていく予定です。各学生の積極的な授業参加を求めるとともに、その授業内容の理解度について、各授業内でレポート提出があります。このレポートは成績評価の対象となりますので、欠席には十分注意してください。					
成績評価の方法	筆記試験（４０％）、各授業内レポート（４０％）、学ぼうとする授業態度(２０％)					
教科書						
参考文献	『よくわかる障害児保育』（尾崎康子他、ミネルヴェア書房）、自閉症に関する文献・資料等の参考・引用文献は、その都度紹介していきます。					

授 業 科 目	社 会 的 養 護 内 容		単位数	1	担当教員	志 濃 原 亜 美
講義のねらいと概要および到達目標	施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。 さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	施設実習を振り返って				
	第3週	社会的養護の歴史の変遷と概念				
	第4週	児童の権利擁護と社会的養護				
	第5週	社会的養護の制度やしぐみ				
	第6週	社会的養護のの実際（１） グループワーク①				
	第7週	社会的養護のの実際（２） グループワーク②				
	第8週	社会的養護のの実際（３） グループワーク③				
	第9週	社会的養護のの実際（４） グループワーク④				
	第10週	社会的養護のの実際（５） グループワーク⑤				
	第11週	社会的養護の現状				
	第12週	社会的養護の課題と地域福祉				
	第13週	グループ発表の調整				
	第14週	グループ発表 1				
	第15週	グループ発表 2				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。					
成績評価の方法	レポート（２０％）、発表（５０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	『保育士養成課程 社会的養護内容』（光生館）					
参 考 文 献	『最新保育資料集 2014』（ミネルヴァ書房） 参考文献は適宜紹介する					

授 業 科 目	社 会 的 養 護 内 容		単位数	1	担当教員	佐 藤 千 代 子
講義のねらいと概要および到達目標	本講義では、社会的養護の体系と児童福祉施設の概要、各種児童施設での子どもの暮らしを知るとともに、職員の日常生活支援、治療的支援、自立支援等について学ぶ。また、社会的養護における児童の権利擁護やその仕組み、保育士の倫理と責務についても学ぶ。 ・児童福祉施設の概要と施設で行われている支援の実際を学ぶ。 ・援助を行う際に必要となる具体的な知識や技術を身につける。 ・社会的養護における児童の権利擁護や保育士の倫理について学ぶ。					
授 業 計 画	第 1 週	社会的養護の体系				
	第 2 週	社会的養護の基本的仕組み				
	第 3 週	社会的養護の実際－乳児院				
	第 4 週	社会的養護の実際－母子生活支援施設				
	第 5 週	社会的養護の実際－児童養護施設①				
	第 6 週	社会的養護の実際－児童養護施設②				
	第 7 週	社会的養護の実際－児童自立支援施設				
	第 8 週	社会的養護の実際－情緒障害児短期治療施設				
	第 9 週	社会的養護の実際－里親制度等				
	第 10 週	自立支援計画の作成の実際 ①				
	第 11 週	自立支援計画の作成の実際 ②				
	第 12 週	日常生活支援				
	第 13 週	治療的支援				
	第 14 週	子どもの権利を守る仕組み				
	第 15 週	試験・まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	プリント、資料・DVD を使って分かり易い講義を行う。内容によっては、グループ討議を行う。分からない点があれば、そのままにしないで質問すること。 プリントは、ファイルにきちんと保管すること。複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出を求める。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。					
成績評価の方法	筆記試験（５０％）、レポート（２０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	プリントを配布する。					
参 考 文 献	適宜紹介する。					

授 業 科 目	保 育 課 程 総 論		単位数	2	担当教員	金 村 美 千 子
講義のねらいと概要および到達目標	幼稚園や保育所では、子ども達の心身ともに健全な発達を促すために、入園時から卒園するまでの生活の大綱を記述した教育課程・保育課程を編成しなければならない。そこで、本科目の到達目標は、次の３点とする。 ①教育課程・保育課程に関する法令を理解する。 ②教育課程の編成・保育課程の編成と指導計画の作成について理解する。 ③計画、実践、省察・評価、改善の過程について全体構造を動的に理解する。					
授 業 計 画	第 1 週	ガイダンス、教育課程・保育課程に関する法令				
	第 2 週	「幼稚園教育要領」と教育課程、「保育所保育指針」と保育課程				
	第 3 週	「教育課程」の編成手順				
	第 4 週	「保育課程」の編成手順				
	第 5 週	乳幼児期の発達課題				
	第 6 週	教育課程・保育課程の編成の基本（１）子どもの発達				
	第 7 週	教育課程・保育課程の編成の基本（２）環境構成				
	第 8 週	教育課程・保育課程の編成の基本（３）保育者の援助				
	第 9 週	教育課程・保育課程の編成の基本（４）地域の実態				
	第 10 週	教育課程・保育課程の編成の基本（５）園の実態				
	第 11 週	教育課程・保育課程の編成の基本（６）行事				
	第 12 週	教育課程・保育課程から指導計画へ				
	第 13 週	教育課程・保育課程の評価				
	第 14 週	試験・まとめ				
	第 15 週	まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	１．風邪を引いているときには、必ずマスクをすること。 ２．オープンキャンパス等で教室変更があると授業内容の変更をする場合がある。 ３．学生の私語は、授業を進めるうえで教師にとっても勉強熱心な学生にとっても迷惑である。学生は、このことをしっかり頭に入れて授業に出てもらいたい。					
成績評価の方 法	筆記試験（ 100 %） ※筆記試験で５０点未満の場合には、毎授業時に提出された「授業のまとめ」を評価して１０点以下の範囲で加点する。					
教 科 書	『教育課程・保育課程総論』（金村美千子編著、同文書院）					
参 考 文 献						

授業科目	保 育 内 容 総 論		単位数	1	担当教員	井 口 正 彦
講義のねらいと概要および到達目標	子育てをめぐる社会状況は、著しい出生率の低下により少子化が深刻に加速するなか心痛む「幼児虐待」の報道が映し出されている。行政は2013年8月に「子ども・子育て関連3法」を成立させ、この法律に基づき2015年度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートする予定である。このこのように、子どもに関する状況の変化がめまぐるしくある。この授業は、保育所保育指針に基づく保育内容等の基礎的学習をしっかりと身につけて、保育現場における的確な判断力を養い、時代が求める保育士について理解が深められるように進めていきたい。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	保育現場の現状について				
	第3週	保育所・幼稚園・認定こども園について				
	第4週	保育所保育指針・総則				
	第5週	保育所保育指針・子どもの発達				
	第6週	保育所保育指針・6か月未満児の保育の内容				
	第7週	保育所保育指針・6か月から1歳3か月未満児の保育の内容				
	第8週	保育所保育指針・1歳3か月から2歳未満児の保育の内容				
	第9週	保育所保育指針・2歳児の保育の内容				
	第10週	保育所保育指針・3歳児の保育の内容				
	第11週	保育所保育指針・4歳児の保育の内容				
	第12週	保育所保育指針・5歳児の保育の内容				
	第13週	保育所保育指針・6歳児の保育の内容				
	第14週	これからの子育て支援について				
	第15週	試験およびこれまでのまとめ				
指導方法履修上の注意	配布したプリント、資料等を使って講義を行う。保育現場での事例を取り入れる。					
成績評価の方法	筆記試験（60％）、レポート（20％）、授業態度（20％）					
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド社）					
参考文献						

授業科目	保 育 内 容 （ 健 康 ）		単位数	1	担当教員	北 洞 誠 一
講義のねらいと概要および到達目標	〔講義のねらいと概要〕 将来の子どもたちの真の自立を考えた時、保育者としてどのように考え、子どもたちに接して、働きかけたら良いかと言う課題に対して、健康面からアプローチして行きます。健康の考え方、健康的な過ごし方、運動の必要性、食の問題等を学びます。 〔到達目標〕 乳幼児期の発育発達の特徴と、その時期に必要な運動、そして食生活等を理解する。					
授 業 計 画	第1週	健康の考え方				
	第2週	保育内容「健康」のねらいと内容				
	第3週	乳幼児期の発育発達Ⅰ（身体発達）				
	第4週	乳幼児期の発育発達Ⅱ（情緒・社会性・パーソナリティの発達）				
	第5週	乳幼児期の運動の必要性Ⅰ				
	第6週	乳幼児期の運動の必要性Ⅱ				
	第7週	最近の子ども達の問題点				
	第8週	食育				
	第9週	食の問題Ⅰ				
	第10週	健康生活Ⅰ（睡眠）				
	第11週	健康生活Ⅱ（体温）				
	第12週	ビデオ学習Ⅰ				
	第13週	ビデオ学習Ⅱ				
	第14週	ビデオ学習Ⅲ				
	第15週	まとめ				
指導方法 履修上の注意	席は学籍番号順に座ること。授業妨害行為（私語、無駄話、雰囲気乱す事等）やコミュニケーションを故意に取らない行為に対しては、教室から退去してもらうことがあります。明らかな授業放棄（他の作業に従事、長時間の睡眠や繰り返しの睡眠）に対しても退去を要請します。指示に従わない場合は、欠席扱いや試験欠格者として扱います。体調が悪く、姿勢を維持できない場合はいつでも教師に申し出ること。出欠確認後の遅刻は、授業終了後に、入室時刻を伝えて、遅刻した旨を報告すること。申告のない場合は欠席扱いとなります。受け身で授業に参加するのではなく、保育の専門家となるべく積極的に知識や思考法を吸収しようとする事。必要に応じてビデオを鑑賞します。					
成績評価の方法	筆記試験（70％）、レポート（20％）、授業態度（10％）					
教科書	『保育内容「健康』』（宮下恭子編、大学図書出版）					
参考文献	なし。					

授 業 科 目	保 育 内 容 （ 人 間 関 係 ）		単位数	1	担当教員	丸 橋 聡 美
講義のねらいと概要および到達目標	保育内容の領域「人間関係」は、他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養う観点から設けられている。人とのかかわりは、人と人との心が深く結び合い、豊かなかかわりがもてるような集団が形成されることをめざすことが必要である。 子どもが人とのかかわる力を養っていくために保育者はどのような援助や指導を行なっていけばよいのかを学ぶ。 子どもの人間関係について理解する。子どもを捉える視点を身につける。子どもとのかかわり方や援助の仕方を身につける。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション、子どもについて考える				
	第2週	人とのかかわりとは				
	第3週	保育の基本と人とのかかわり				
	第4週	人とのかかわりに関する領域「人間関係」				
	第5週	人とのかかわりの発達（0,1,2歳児）				
	第6週	人とのかかわりの発達（3,4,5歳児）				
	第7週	子どもの生活と人とのかかわり				
	第8週	遊びのなかで育つ人とのかかわり				
	第9週	遊びを通して育つ子どもの基本的な人とのかかわり				
	第10週	人とのかかわりを育てる保育の実践				
	第11週	人とのかかわりの育ちをみる視点				
	第12週	人とのかかわりの育ちをみる視点（事例検討）				
	第13週	人とのかかわりを育てる保育者の視点				
	第14週	領域「人間関係」をめぐる諸問題				
	第15週	まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義を中心に行なう。 必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料を配布しながら進める。					
成績評価の 方 法	レポート（50%）、課題（25%）、授業態度（25%）					
教 科 書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』・解説書					
参 考 文 献	『家庭支援の保育学』（編著 武藤安子・吉川晴美・松永あけみ、建帛社）					

授 業 科 目	保 育 内 容 （ 環 境 ）		単位数	1	担当教員	中 村 陽 一
講義のねらいと概要および到達目標	子どもは家庭・保育所・幼稚園・地域社会などの「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生活し、その体験を通じて、人格形成の基礎となる豊かな心情、思考力や想像力、意欲や態度などが培われる。本講は、①子どもにとっての「環境」と、保育者に求められる援助について理解すること、②領域「環境」をねらいと内容を理解すること、を目的とする。 到達目標 １．「環境を通した保育」の意義と、保育者に求められる援助について理解する。 ２．保育内容「環境」のねらいと内容を理解する。 ３．子ども自然体験と保育者の適切な援助について具体的に学ぶ。					
授 業 計 画	第 1 週	保育と環境　－　「環境を通して行う保育」の特質、子どもの発達と環境の関わり				
	第 2 週	領域「環境」のねらいと内容　－　「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」のねらいと内容				
	第 3 週	子どもの生活と物的環境①　－　保育の環境構成（保育室、園舎、園庭など）				
	第 4 週	子どもの生活と物的環境②　－　活動の展開と保育者の援助				
	第 5 週	子どもの生活と自然環境①　－　自然体験と子どもの生活、季節を感じる保育				
	第 6 週	子どもの生活と自然環境②　－　園外保育、年間計画と具体的活動				
	第 7 週	動物の飼育　－　子どもと動物の関わり、飼育動物の特徴と配慮、実践例				
	第 8 週	植物の栽培　－　子どもと植物の関わり、栽培植物の特徴と配慮、実践例				
	第 9 週	子どもの生活と人的環境　－　保育者の役割、異年齢児との関わり、地域との関わり				
	第 10 週	子どもの生活と社会環境　－　情報と生活、行事との関わり、地域や施設との関わり				
	第 11 週	数量や文字に関する取り扱い　－　子どもの生活と数、子どもの生活と文字				
	第 12 週	保育内容「環境」に関わる指導計画　－　長期の計画、短期の計画、見通しを持った環境構成				
	第 13 週	保育内容「環境」に関わる教育思想の変遷　－　子どもとは何か、子どもの自発性と遊びの大切さ				
	第 14 週	保育内容「環境」と小学校教育への連続性　－　小学校教育の「生活科」と「総合学習」への連続性				
	第 15 週	まとめと定期試験　－　授業の振り返りとまとめ、定期試験				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・講義を主とするが、必要に応じてビデオ教材や写真等を用いる。 ・保育者を目指すものとして自覚を持ち、問題意識を持って授業に臨むこと。					
成績評価の 方 法	期末試験（70％）、授業態度（30％）					
教 科 書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館）					
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。					

授業科目	保育内容（音楽表現Ⅰ）		単位数	1	担当教員	高 崎 和 子
講義のねらいと概要および到達目標	保育内容の領域「表現」について、子どもの音楽表現に関する内容を中心に、その指導理念と実技を学びます。 この授業では、子どもの生活の中での音楽に関する表現活動を理解し、援助するために必要な知識と技術を身につけるとともに、自らの感性を豊かにし、そしてリズムカルな表現を楽しむことを目標とします。					
授業計画	第1週	領域「表現」のとらえ方、領域「表現」のねらいと内容について				
	第2週	子どもの発達と音楽表現活動				
	第3週	子どもの表現の援助者としての資質について				
	第4週	保育における「わらべうた」あそびの意義と音楽的構造について				
	第5週	絵かきうたの演習				
	第6週	絵かきうたの創作・発表				
	第7週	パネルシアター（１）保育の中でのパネルシアターの効果的な活用法				
	第8週	パネルシアター（２）うたを取り入れたパネルシアターの演習				
	第9週	乳児のふれあいあそびうた				
	第10週	生活のうた、手あそび				
	第11週	季節のうたあそび				
	第12週	行事と音楽				
	第13週	手あそびの創作（１）テーマの設定・作品の制作				
	第14週	手あそびの創作（２）作品の制作・練習				
	第15週	発表・まとめ				
指導方法 履修上の注意	・指導理念についての講義と実技を組み合わせながら、各内容を総合的に進めます。 ・取り上げる教材や課題によって、グループ研究を行います。					
成績評価の方法	レポート（２０％）、課題（２０％）、実技（３０％）、授業態度（３０％）					
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版社）					
参考文献						

授業科目	保育内容（造形表現Ⅰ）		単位数	1	担当教員	豊 泉 尚 美
講義のねらいと概要および到達目標	この授業では、保育内容「表現」について、主に造形表現の教材研究を行います。 「音楽表現」や「人間関係」等、関連する教科とも連携を図りながら、学生一人ひとりが自分の表現力を身につけ、子どもたちとかかわることができるように支援していきます。 パネルシアターなどを制作、発表し、子どもの前で明るく、のびのびと表現できるようになることを到達目標とします。					
授業計画	第1週	幼児の造形表現について				
	第2週	自己紹介グッズ 制作（1）				
	第3週	自己紹介グッズ 制作（2）				
	第4週	造形教材について（1）—エブロンシアター・絵本・紙芝居 等				
	第5週	造形教材について（2）—パネルシアターについて				
	第6週	パネルシアター制作（1）				
	第7週	パネルシアター制作（2）				
	第8週	パネルシアター制作（3）				
	第9週	パネルシアター制作（4）				
	第10週	パネルシアター制作（5）				
	第11週	絵本のよみきかせ				
	第12週	パネルシアターの演出方法				
	第13週	パネルシアター発表（1）				
	第14週	パネルシアター発表（2）				
	第15週	パネルシアター発表（3）				
指導方法 履修上の注意	・作品の提出期限を厳守すること ・制作に要する材料費は自己負担とします。（パネルシアター材料費として 800~1700 円かかります。）					
成績評価の方法	作品（40％）、発表（40％）、授業態度（20％）					
教科書						
参考文献	授業中に随時紹介する。					

授 業 科 目	保 育 内 容 （ 音 楽 表 現 Ⅱ ）		単位数	1	担当教員	高 崎 和 子
講義のねらいと概要および到達目標	子どもの活動は、一つの領域に留まらず、さまざまな領域に関連を持ちながら、総合的に展開していくものであるから、広い視野に立っての理解と実践が必要となります。 この授業では、「音楽表現Ⅰ」で学んだ知識・技能を活かし、他領域と連携させながら、総合的な表現活動の指導法について学び、領域「表現」に対して豊かに関わることの出来る保育者になることを目標とします。					
授 業 計 画	第1週	授業のねらいや進め方について				
	第2週	新しい子どものうたあそび（1）季節のうたあそび				
	第3週	新しい子どものうたあそび（2）じゃんけんあそび				
	第4週	新しい子どものうたあそび（3）ふれあいあそび				
	第5週	新しい子どものうたあそび（4）身体あそび				
	第6週	外国のあそびうた				
	第7週	行事と音楽				
	第8週	リズムあそび、リトミック（1）リズムカルなうたあそび				
	第9週	リズムあそび、リトミック（2）保育の中におけるリトミックの活用法				
	第10週	リズムあそび、リトミック（3）リズム楽器を用いたあそび				
	第11週	効果音としての音楽の使い方				
	第12週	総合的な表現活動の研究（1）表現形態・テーマの設定・イメージづくり				
	第13週	総合的な表現活動の研究（2）作品の制作				
	第14週	総合的な表現活動の研究（3）総合練習				
	第15週	発表・まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・講義は必要に応じて取り入れますが、実技を中心として進めます。 ・グループによる創作活動は、自主的な態度で積極的に進めてほしい。					
成績評価の方法	レポート（20％）、課題（20％）、実技（30％）、授業態度（30％）					
教 科 書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版社）					
参 考 文 献						

授 業 科 目	保 育 内 容 （ 造 形 表 現 Ⅱ ）		単 位 数	1	担 当 教 員	豊 泉 尚 美
講義のねらいと概要および到達目標	この授業では、幼児の造形表現について理解を深め、子ども一人ひとりの感性を尊重しつつ、表現意欲を引き出すための、望ましい援助の方法を考えます。 また授業中は、学生に「様々な素材と出会って制作し、表現する」ということを子どもの側と保育者側、両方の視点に立つて行うように求めます。 子どもの発達に即した造形活動の指導計画の立案ができるようになることを到達目標とします。					
授 業 計 画	第 1 週	授業のねらいや進め方について				
	第 2 週	保育における造形活動（１）				
	第 3 週	保育における造形活動（２）				
	第 4 週	幼児の発達と造形表現（１）				
	第 5 週	幼児の発達と造形表現（２）				
	第 6 週	造形活動の技法と実践方法（１）				
	第 7 週	造形活動の技法と実践方法（２）				
	第 8 週	造形活動の技法と実践方法（３）				
	第 9 週	造形活動の技法と実践方法（４）				
	第 10 週	造形活動の技法と実践方法（５）				
	第 11 週	造形活動の技法と実践方法（６）				
	第 12 週	造形活動の指導計画と制作（１）				
	第 13 週	造形活動の指導計画と制作（２）				
	第 14 週	造形活動の指導計画と制作（３）				
	第 15 週	造形表現活動の意義を考える				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・制作に要する材料費は自己負担とする。（授業開始後、材料費として約２００円徴収する。） ・作品の提出期限を厳守すること。（作品はファイル等にまとめて学期末に提出する）					
成績評価の方法	筆記試験（２０％）、作品（４０％）、発表（２０％）、授業態度（２０％）					
教 科 書	『楽しい造形表現』（新井規夫・染谷哲夫・豊泉尚美 他 圭文社）					
参 考 文 献	授業中に随時紹介する。					

授 業 科 目	保 育 指 導 方 法		単位数	2	担当教員	井 口 正 彦
講義のねらいと概要および到達目標	子ども達は五感を使って自分を取り巻く外界をひとつ・ひとつ確かめ、かかわっていきます。このような子どもの姿から保育指導を考えるにあたり、「子どもの中に何が育とうとしているのか」「興味や関心は何なのか」「出会わせたい経験は何か」などを重視し、子ども達がいきいきと主体的に活動していく「内容」とするために保育者の心のアンテナと愛情がしっかりしていません。この授業では、前半は年間の園行事を通して各行事の考え方・保育の指導方法を学習し、後半は実際の保育事例を用いながら保育現場における指導方法を学び、保育者として心豊かな感性と子どもの潜在能力を引き出す力を身につけることをねらいとします。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション	第16週	遊びをととしての保育指導方法		
	第2週	4月・0歳児の保育のねらい	第17週	遊びのなかの学びをはぐくむ保育		
	第3週	4月・1歳児・2歳児の保育のねらい	第18週	環境による保育指導方法1		
	第4週	4月・3歳児の保育のねらい	第19週	環境による保育指導方法2		
	第5週	4月・4歳児・5歳児の保育のねらい	第20週	幼児の主体的な生活を基盤とする保育		
	第6週	保育活動と園行事について	第21週	保育における個と集団について		
	第7週	保育指導方法の基本について	第22週	9月の園行事・考え方と保育指導		
	第8週	保育の魅力と保育指導方法について	第23週	10月の園行事・考え方と保育指導		
	第9週	保育方法の原理について	第24週	11月の園行事・考え方と保育指導		
	第10週	乳幼児の理解と保育指導方法について	第25週	12月の園行事・考え方と保育指導		
	第11週	4月の園行事・考え方と保育指導	第26週	1月の園行事・考え方と保育指導		
	第12週	5月の園行事・考え方と保育指導	第27週	2月の園行事・考え方と保育指導		
	第13週	6月・7月の園行事・考え方と保育指導	第28週	幼児期の保育と小学校教育の関連		
	第14週	指導計画と保育指導方法について	第29週	地域と連携した保育について		
	第15週	試験およびこれまでのまとめ	第30週	試験およびこれまでのまとめ		
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	配布したプリント、資料等を使って講義を行う。保育現場での事例を取り入れる。					
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、レポート（20％）、授業態度（20％）					
教 科 書						
参 考 文 献						

授 業 科 目	乳 児 保 育		単 位 数	2	担 当 教 員	富 山 大 士
講義のねらいと概要および到達目標	【講義のねらいと概要】乳児保育の社会における位置づけを理解し、子どもの健やかな成長を支える乳児保育実践へとつなげることをねらいとする。前期に乳児期の発達及び発達に沿った保育についての基礎知識を習得し、後期に学ぶ乳児保育の諸課題につなげて理解を深める。 【到達目標】 １．乳児期の発達について学び、健やかな成長を支える保育実践のための基礎知識を習得する。 ２．乳児保育の歴史を学ぶと共に社会の現状を把握し、乳児保育の役割・位置づけを理解する。 ３．１．の基礎知識をベースとし、諸課題項目ごとに乳児保育について理解を深める。					
授 業 計 画	第 1 週	オリエンテーション 乳児保育とは	第 16 週	手作り玩具の発表（作品試験）		
	第 2 週	新生児の発達と保育	第 17 週	乳児保育の必要性（社会的背景）		
	第 3 週	1 か月から 2 か月児の発達と保育	第 18 週	乳児保育の歴史		
	第 4 週	3 か月から 5 か月児の発達と保育のねらい	第 19 週	乳児保育の実際（さまざまな保育サービス）		
	第 5 週	3 か月から 5 か月児の保育内容	第 20 週	食事		
	第 6 週	6 か月から 1 歳 3 か月未満児の発達と保育のねらい	第 21 週	睡眠・排泄		
	第 7 週	6 か月から 1 歳 3 か月未満児の保育内容	第 22 週	着脱・清潔		
	第 8 週	1 歳 3 か月から 2 歳未満児の発達と保育のねらい	第 23 週	健康状態の把握と乳児期の病気・予防接種		
	第 9 週	1 歳 3 か月から 2 歳未満児の保育内容	第 24 週	事故・けが・安全管理		
	第 10 週	2 歳児の発達と保育のねらい	第 25 週	家庭と地域・関係機関との連携		
	第 11 週	2 歳児の保育内容	第 26 週	人的環境としての保育者のありかた		
	第 12 週	3 歳児の発達と保育のねらい	第 27 週	乳児保育における物的環境のありかた		
	第 13 週	3 歳児の保育内容	第 28 週	乳児期の指導計画・デイリープログラム		
	第 14 週	実技試験・乳児の発達に即した玩具	第 29 週	保育記録の大切さ		
	第 15 週	筆記試験・まとめ	第 30 週	筆記試験・まとめ		
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	１）教科書・配布プリント・写真・動画等を用いて授業をすすめるとともに、乳児保育にて使用する絵本・玩具・手遊び・わらべうた等を紹介し、実践的な授業を行う。 ２）授業の開始時に、前回授業の理解度を確認する小テストを行う。 ３）遅刻・私語・飲食・化粧は厳禁。携帯電話は電源 OFF またはマナーモードにすること。					
成 績 評 価 の 方 法	筆記試験（５０％）、実技（前期１５％）、作品（後期１５％）、授業態度（２０％） ※ 実技試験として、各自が乳児保育の実践発表を行い、発表内容について評価する（前期）。 ※ 作品試験として、各自が制作した手作り玩具を発表し、評価する（後期）。 ※ 授業態度の一部として、ノートの記入・配布プリントの整理状態をチェックし評価する。					
教 科 書	『乳児保育 ～一人一人を大切に～』（加藤敏子・富永由佳、萌文書林） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館）					
参 考 文 献	『心を感じる、自然を感じる』（遠山洋一、筒井書房）、『乳児保育の実践と子育て支援』（榎原洋一・今井和子、ミネルヴァ書房）					

授業科目	乳 児 保 育		単位数	2	担当教員	岡 本 良 子
講義のねらいと概要および到達目標	地域の子育て支援としての乳児保育の役割と保育の実践とを結びつけて理解できることを目的とする。授業では、まず、乳児期の成長発達と援助について乳児保育の基礎的知識を習得する。次に、乳児保育の歩みや乳児保育が必要となる背景と乳児保育の意義を理解し、さらに関係機関の役割や連携について学ぶ。到達目標は、1、乳児期の子どもの成長発達と保育実践のための基礎的知識を習得する。2、乳児保育の歴史を通して社会保障としての乳児保育の意義を理解する。3、現在の子育て社会の問題と乳児保育の必要性を理解する。4、様々なソーシャル・サポートとの連携に基づいた子育て支援としての乳児保育の役割を習得することである。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション 乳児保育とは何か	第16週	社会保障としての乳児保育の変遷 (戦後の社会福祉基礎構造の確立と乳児保育)、		
	第2週	新生児の成長発達と援助 (成長発達の特徴)	第17週	社会保障としての乳児保育の変遷 (高度経済成長と乳児保育)		
	第3週	新生児の成長発達と援助 (保育内容と適切な援助)	第18週	社会保障としての乳児保育の変遷 (社会福祉基礎構造改革と乳児保育)		
	第4週	1～4か月児の成長発達と援助 (形態的成長、機能的発達と援助)	第19週	社会福祉と保育士 (保育士のアイデンティティ)		
	第5週	1～4か月児の成長発達と援助 (精神的発達と援助)	第20週	社会福祉と保育士 (社会福祉専門職としての保育士)		
	第6週	5～12か月児の成長発達と援助 (形態的成長、機能的発達と援助)	第21週	保育所と関係機関・他職種との連携 (ケースマネジメント)		
	第7週	5～12か月児の成長発達と援助 (機能的発達と援助)	第22週	乳児保育の実施場所 (保育所)		
	第8週	5～12か月児の成長発達と援助 (精神的発達と援助)	第23週	乳児保育の実施場所 (乳児院)		
	第9週	1歳児の成長発達と援助 (形態的成長、機能的発達と援助)	第24週	乳児保育の実施場所 (家庭での保育)		
	第10週	1歳児の成長発達と援助 (精神的発達と援助)	第25週	乳児保育の必要性 (親になるということ)		
	第11週	2歳児とそれからの成長発達と援助 (形態的成長、機能的発達と援助)	第26週	乳児保育の必要性 (一次予防)		
	第12週	2歳児とそれからの成長発達と援助 (精神的発達と援助)	第27週	乳児保育の必要性 (二次予防)		
	第13週	2歳児とそれからの成長発達と援助 (精神的発達と援助)	第28週	乳児保育の必要性 (二次予防)		
	第14週	乳児期の基本的生活習慣と援助	第29週	乳児保育の必要性 (三次予防)		
	第15週	試験・まとめ	第30週	試験・まとめ		
指導方法 履修上の注意	(1) 講義用プリント、資料、映像等を用いて授業をすすめる。 (2) 日頃からニュースや新聞等で社会保障としての社会福祉に関連する出来事について関心を持って耳を傾けるように心がけること。 (3) 授業中の私語、携帯電話等の使用、飲食、化粧は禁止する。					
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、授業態度 (30%)					
教科書	授業でプリントを配布する。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授 業 科 目	指 導 技 術		単位数	2	担当教員	後 田 紀 子
講義のねらいと概要および到達目標	演習指導を通して、幼児教育の目的や保育者の役割を知り、意欲をもって取り組めるようにする。保育者が子どもと心を通わせながら、さらに子どもの興味・関心・要求などを汲み取り、相互作用としての指導をどのように展開したらよいか、自ら導き出せるようにする。また、子ども理解、環境、遊びを通しての保育方法等の理解を深めることを目的とする。 ・ 保育者としての基本的な姿勢や技能を身に付けることができるようにする。 ・ グループ活動を通し、共同活動の意義を理解し、自信を身に付けることができるようにする。					
授 業 計 画	第 1 週	オリエンテーション 幼稚園の現状	第 16 週	指導教材の制作①		
	第 2 週	制作を通して 5 領域を知る①	第 17 週	指導教材の制作②		
	第 3 週	製作を通して 5 領域を知る②	第 18 週	指導教材の制作③		
	第 4 週	音楽を聴いて絵で表す	第 19 週	指導教材の制作④		
	第 5 週	年齢別のあそび	第 20 週	指導教材の制作⑤		
	第 6 週	劇遊び	第 21 週	部分実習の展開の指導方法①		
	第 7 週	児童文化財の活用方法①	第 22 週	部分実習の展開の指導方法②		
	第 8 週	児童文化財の活用方法②	第 23 週	部分実習の展開の指導方法③		
	第 9 週	児童文化財の活用方法③	第 24 週	子どもとの対応（事例検討）①		
	第 10 週	児童文化財の活用方法④	第 25 週	子どもとの対応（事例検討）②		
	第 11 週	生活技術を体験①	第 26 週	保護者との対応（事例検討）①		
	第 12 週	生活技術を体験②	第 27 週	保護者との対応（事例検討）②		
	第 13 週	幼稚園の 1 日について知る	第 28 週	指導方法を考える①（素話）		
	第 14 週	幼稚園の 1 日を日誌に書く	第 29 週	指導方法を考える②（素話）		
	第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ		
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・ 実習期間を考慮し、授業内容の順番が変更することもある。 ・ 授業には積極的に参加をし、実践力をつけるように心がける。 ・ 個人発表やグループ発表を行うため、欠席をしないように心がける。 ・ 授業内での教材・材料等を各自で用意をすることがあるので、指示、連絡等をよく聞くこと。					
成績評価の方 法	筆記試験（30％）、レポート（5％）、課題（5％）、作品（5％）、発表（15％） 実技（10％）、授業態度（30％）					
教 科 書	特になし					
参 考 文 献	『幼稚園教育要領』（チャイルド社） 必要に応じて紹介する。					

授 業 科 目	指 導 技 術		単位数	2	担当教員	遠 藤 朋 子
講義のねらいと概要および到達目標	幼児の発達段階に沿った育ちを知り、興味・関心をひきだせるような指導方法を身につける。 各教科で培った知識を総合的に活用し、保育者として必要な心構えや専門性を高め、保育現場ですぐに役立つ指導技術を習得する。					
授 業 計 画	第 1 週	オリエンテーション、幼稚園の現状	第 16 週	保育者としての資質		
	第 2 週	幼稚園教育の基本	第 17 週	保育計画と活動の展開		
	第 3 週	保育者の役割	第 18 週	部分実習の展開と指導方法		
	第 4 週	保育者としての資質	第 19 週	行事へのとりくみ		
	第 5 週	幼児の発達と遊び	第 20 週	行事へのとりくみ		
	第 6 週	教材の特徴と活用方法（手作りおもちゃ）	第 21 週	指導用教材の作成		
	第 7 週	教材の特徴と活用方法 （ペープサート、エプロンシアター）	第 22 週	指導用教材の作成		
	第 8 週	教材の特徴と活用方法（折り紙、手品等）	第 23 週	指導用教材の作成		
	第 9 週	教材の特徴と活用方法（絵本、紙芝居等）	第 24 週	手作り教材を使った模擬保育		
	第 10 週	手あそびについて	第 25 週	手作り教材を使った模擬保育		
	第 11 週	手あそびの実習	第 26 週	手作り教材を使った模擬保育		
	第 12 週	絵本の特徴と読み聞かせ方	第 27 週	子どもとの対応		
	第 13 週	絵本の読み聞かせの実習	第 28 週	保護者との対応		
	第 14 週	紙芝居・素話の特徴と演じ方	第 29 週	保育者としての資質をたかめる		
	第 15 週	まとめ	第 30 週	まとめ		
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	・講義と実習を行う。 ・授業で使用する教材・材料等を各自が用意することがあるので、指示に従いそろえること。 ・実習期間を考慮し、授業内容の順番が変更することもある。					
成績評価の 方 法	筆記試験（４０％）、発表・実技等（３０％）、授業態度（３０％）					
教 科 書	『育ての心』上・下（倉橋惣三著、フレーベル館） 『実習に役立つ保育技術』（百瀬ユカリ著、創成社）					
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。					

授 業 科 目	教 育 相 談		単 位 数	2	担 当 教 員	加 賀 谷 崇 文
講義のねらいと概要および到達目標	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行なう実践活動である。昨今子どもの成長過程を認識せずに親になっている大人が少なからずいて解決困難な場合が生じており、教育相談活動は複雑な様相を呈してきた。 授業では、援助の前提となる子どもの発達とよく起こりえる問題を紹介していく。また、相談の実践に必要な援助技術として、心理カウンセリングなどの技法を紹介していく。 1. 相談の方法を知ること。 2. 教育場面での相談のイメージを具体的に持つこと。 3. 子どもの心の問題に対して共感的理解を持つこと。					
授 業 計 画	第1週	教育相談とは何か				
	第2週	教育相談の実践				
	第3週	教育相談とカウンセリング				
	第4週	カウンセリングの技法 1				
	第5週	カウンセリングの技法 2				
	第6週	カウンセリングの技法 3				
	第7週	子どもの発達				
	第8週	子どもに多く見られる心理的問題 1				
	第9週	子どもに多く見られる心理的問題 2				
	第10週	子どもに多く見られる発達の問題 1				
	第11週	子どもに多く見られる発達の問題 2				
	第12週	子育ての悩みとは				
	第13週	実践的練習				
	第14週	まとめ				
	第15週	レポートの作成				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義形式で行う。 幼稚園の教育相談では、親の相談ごとに耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聴き取るという構えを求める。					
成績評価の方法	レポート（90％）、授業態度（10％）					
教 科 書						
参 考 文 献						

授 業 科 目	教 育 相 談		単位数	2	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要および到達目標	教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。 背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになって考えられる。 本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を目標とする。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。					
授 業 計 画	第 1 週	1. イントロダクション 教育相談とは何か				
	第 2 週	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [相談を受ける時の基本姿勢]				
	第 3 週	ロールプレイ(2) [意思を通じあうこと]				
	第 4 週	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [概要]				
	第 5 週	教育相談の基礎(2) [実践へのヒント]				
	第 6 週	教育相談のためのカウンセリング活用				
	第 7 週	教育相談のための心理アセスメント				
	第 8 週	教育相談のプロセス				
	第 9 週	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [登園渋り]				
	第 10 週	子どもの心の発達・心の問題(2) [落ち着きなし]				
	第 11 週	子どもの心の発達・心の問題(3) [保護者の心]				
	第 12 週	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論				
	第 13 週	エンカウンター実習				
	第 14 週	まとめ				
	第 15 週	今後へのアドバイスと試験				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。 その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。 相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。					
成績評価の方法	筆記試験（60％）、授業態度（40％）					
教 科 書	特に指定しない					
参 考 文 献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する					

授 業 科 目	教 育 相 談		単 位 数	2	担 当 教 員	今 水 豊
講義のねらいと概要および到達目標	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助を行う実践活動である。もちろんその有用性は保育園においても同様である。 授業ではまず援助の前提となる子どもの発達の総まとめをする。次に子どもに起こりうる問題と相談場面の実際を紹介していく。 よって本科目では、・発達を多角的に理解すること・相談に必要な臨床心理学的な見立てについて理解すること・援助技術の向上 を到達目標とする。					
授 業 計 画	第1週	Ⅰ 教育相談とは何か 相談の必要性				
	第2週	Ⅰ 教育相談とは何か 相談のながれ				
	第3週	Ⅱ 子どもの発達の特徴 発達の表の作成（身体・運動・言語の発達）				
	第4週	Ⅱ 子どもの発達の特徴 発達の表の作成（認知・親子関係の発達）				
	第5週	Ⅱ 子どもの発達の特徴 発達の表の作成（社会心理的発達）				
	第6週	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題 A. 発達障害の実際				
	第7週	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題 A. 特別支援教育				
	第8週	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題 A. 養育者の実際				
	第9週	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題 B. 虐待				
	第10週	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題 C. 大震災と PTSD				
	第11週	Ⅲ 子どもに見られる発達・心理的問題 C. 心のケアの実際				
	第12週	Ⅳ 相談の実際 教育相談の意義				
	第13週	Ⅳ 相談の実際 遊戯療法				
	第14週	Ⅳ 相談の実際 遊戯療法の実際				
	第15週	筆記試験・まとめ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	講義形式で行う。 幼稚園の教育相談では、親の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する。 謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聞き取るという構えを求める。					
成 績 評 価 の 方 法	筆記試験（50％）、課題（30％）、授業態度（20％）					
教 科 書	適宜、資料を配布する。					
参 考 文 献	授業にて適宜紹介する。					

授 業 科 目	教 育 相 談		単位数	2	担当教員	大熊 美佳子
講義のねらいと概要および到達目標	教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行う実践活動である。本講義では、保育者として、子どもや周囲の人々に適切な支援を行うために必要な基礎知識、技法、心得の習得を目的とする。 到達目標 ①子どもの発達にともない変化するさまざまな問題を理解する ②教育相談の基礎知識を習得する ③相談実践に必要な援助技術を学ぶ					
授 業 計 画	第1週	教育相談とは				
	第2週	子どもの発達①				
	第3週	子どもの発達②				
	第4週	子どもの発達③				
	第5週	子どもの心と親子関係①				
	第6週	子どもの心と親子関係②				
	第7週	子どもの気になる行動と発達の問題①				
	第8週	子どもの気になる行動と発達の問題②				
	第9週	子どもの気になる行動と発達の問題③				
	第10週	カウンセリングの技法①				
	第11週	カウンセリングの技法②				
	第12週	カウンセリングの技法③				
	第13週	保護者への支援①				
	第14週	保護者への支援②				
	第15週	試験・まとめ				
指導方法 履修上の注意	講義形式で行う。 相手の話に耳を傾けること、相手の心に寄り添うことなど教育相談において必要な心得を身につけ、将来に役立てるためにも、自分が相談を受ける立場であったら、どのように対応するかをイメージしながら講義に望んで欲しい。					
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）					
教科書	特になし。					
参考文献	講義の中で適宜紹介する。					

授 業 科 目	教 育 実 習	単 位 数	4	担 当 教 員	後田紀子 高橋 恵
講義のねらいと概要および到達目標	教育実習は、幼稚園教諭の免許状を取得するための必須科目である。既に学習した講義、演習等の専門教育科目を総合的に整理して、幼稚園教育現場での園児、教職員等とのかかわりと実践活動を通して幼稚園教諭（保育者）としての資質を習得していくことを目的とする。				
授 業 計 画	○前期：見学、観察実習・参加実習 実際の教育現場で、園児、教諭（保育者）の実践活動の状況を見学、観察したり、参加することにより幼稚園教育の意義、教職員の職務内容や、人的、物的環境が、実際の教育の中で、どのように活かされているかを理解する。また、 (1) 一週間と一日の教育の流れを理解する。 (2) 園児の活動の様子を理解する。 (3) 教諭（保育者）の職務内容と教育活動を理解する。 (4) 教諭（保育者）としての自覚を確認する。 ○後期：参加実習・指導実習 前期実習での体験を基に、園児と積極的に関わり、指導の実地経験を積む。学校で学んだ理論や技術を実際の現場での指導体験と結びつけ、自らの保育観、目標を確立する。 (1) 幼稚園教育の実際を体験し、教諭（保育者）としての指導力、技能を身につける。 (2) 教諭（保育者）の立場に立って指導計画を立案し、その指導を体験する。 (3) 園児の安全、衛生面に対する配慮と措置について習得する。 (4) 一人一人の園児についての理解を深め、適切な対応と指導を体験する。 (5) 教諭（保育者）としての責任感、使命感を学び、園児のための環境づくりを考える。				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	「幼児教育研究」で履修した内容を実践すると同時に、実習園の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。 また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行われる場合があり、幼稚園教諭免許状取得ができないことになるので厳重に注意すること。				
成績評価の方法	実習園の評価及び実習上の取り組み（50%）、実習日誌（30%）、その他課題等（20%）全般にわたる総合評価により行う。				
教 科 書	『実習の手引き』実習委員会				
参 考 文 献					

授 業 科 目	幼 児 教 育 研 究		単位数	1	担当教員	後田紀子 高橋 恵
講義のねらいと概要および到達目標	教育実習の準備を行う。教育実習と平行して行われる授業で、実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容や実習手続き書類の作成について学習をする。また、幼稚園教育要領の内容を理解し、実習生として幼稚園生活に参加することをイメージする。子どもを理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。					
授 業 計 画	第 1 週	幼稚園教育実習の意義、目的、心得		第 16 週	後期実習の目的（参加、責任指導実習）	
	第 2 週	教育実習の目的理解		第 17 週	後期実習参加の心得	
	第 3 週	前期実習の目的（参加、観察実習）		第 18 週	部分、責任指導実習の留意点	
	第 4 週	前期実習参加の心得		第 19 週	実習日誌の作成指導①	
	第 5 週	実習手続き書類の作成指導①		第 20 週	実習日誌の作成指導②	
	第 6 週	実習手続き書類の作成指導②		第 21 週	実習日誌の作成指導③	
	第 7 週	オリエンテーションについて		第 22 週	指導計画案の作成指導①	
	第 8 週	持ち物、身だしなみについて		第 23 週	指導計画案の作成指導②	
	第 9 週	幼稚園の一日の流れと実習日誌の書き方		第 24 週	指導計画案の作成指導③	
	第 10 週	参加、観察実習の留意点		第 25 週	指導計画案の作成指導④	
	第 11 週	実習日誌の作成指導①		第 26 週	実習課題と準備の説明	
	第 12 週	実習日誌の作成指導②		第 27 週	オリエンテーション報告書、実習報告の作成	
	第 13 週	実習課題と準備の説明①		第 28 週	実習評価と反省	
	第 14 週	実習課題と準備の説明②		第 29 週	教育実習全体を通しての反省	
	第 15 週	実習評価と反省		第 30 週	まとめ	
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	各実習園対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。					
成績評価の方法	レポート（３０％）、課題（３０％）、授業態度（３０％）諸手続き（１０％）					
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）					
参 考 文 献	『幼稚園教育要領』（チャイルド社）					

授 業 科 目	保育・教職実践演習（幼稚園）		単位数	2	担当教員	豊泉・小堀・後田・丸橋
講義のねらいと概要および到達目標	この演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、幼稚園教諭として必要な、知識及び技術を修得したことを確認していくものである。 幼稚園での（保育現場としての）視点を取り入れ、幼稚園教諭としての最小限必要な資質能力を明確にし、演習形式によりこれまでに不足していると思われる知識、技術を各自が認識し、積極的に身につけるように取り組める内容を展開する。					
授 業 計 画	第1週	教職実践演習（幼稚園）の授業の進め方について・これまでの学修の振り返りについて				
	第2週	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について ①（講義、レポート）				
	第3週	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について ②（グループ討議）				
	第4週	組織の一員としての自覚について （講義、レポート）				
	第5週	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について（講義、グループ討議）				
	第6週	幼児理解について（講義、レポート）				
	第7週	幼児理解について（グループ討議、ロールプレイング）				
	第8週	学級経営・学級経営案の作成について（講義、レポート）				
	第9週	学級経営について（グループ討議）				
	第10週	実技指導 ①				
	第11週	実技指導 ②				
	第12週	実技指導 ③				
	第13週	保育内容、保育内容の指導力について（講義、レポート）				
	第14週	保育内容の指導力について（グループ討議）				
	第15週	資質能力の確認、まとめ				
指導方法 履修上の注意	毎回のテーマに沿って、講義、レポート作成、グループ討議を行う。各自が課題を持って積極的に取り組むこと。 毎回の内容を積み上げながら取り組むため、原則として欠席はしないように。					
成績評価の方法	レポート（50％）、授業態度・授業への取り組み（50％）					
教科書	必要に応じて、資料を配布または指示する（例：幼児教育研究にて使用しているテキスト持参）					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授 業 科 目	保 育 所 実 習 I	単位数	2	担当教員	丸橋聡美・富山大士
講義のねらいと概要および到達目標	保育が士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち前期実習が保育所実習Ⅰとなる。(後期実習は、保育所実習Ⅱとして実施) 保育所の生活に参加し、観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。保育所の役割や機能、職務倫理について学び理解する。日々の保育の展開、保育の計画や記録の仕方を体験し、実践できるようにする。自己評価をする。保育士としての業務内容を体験する。 第1学年(二部は第2学年)に12日間実施。				
授 業 計 画	実習施設について理解する 保育の一日の流れを理解し、参加する 子どもの観察とその記録より子どもを理解する 子どもの発達過程を理解し、子どもへの援助やかかわりを学ぶ 保育の計画や子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ 子どもの生活や遊びと保育環境を学ぶ 子どもの安全及び疾病予防への配慮について理解する 保育課程の意義を理解しそれに基づく指導計画を学ぶ 記録に基づく省察や自己評価を行なう 子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ 保育士の業務内容や職員間の役割分担と連携について理解する 保育士の役割と職業倫理を学ぶ				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	「保育所実習研究Ⅰ」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。				
成績評価の方法	実習課題(20%)、実習日誌(30%)、実習施設による評価(50%)				
教 科 書	『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』・解説書				
参 考 文 献	保育所実習研究の授業で使用する配布資料及び参考文献をよく参照すること。				

授 業 科 目	施 設 実 習	単 位 数	2	担 当 教 員	小堀哲郎・高橋恵
講義のねらいと概要および到達目標	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について实际的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、知的障害者施設等で実践するものである。 ①施設の役割や機能、施設保育士の職務についての理解を深める。 ②これまで学んできた福祉関係の授業の内容を実践的に理解する。				
授 業 計 画	実習施設の目的・機能の理解①				
	実習施設の目的・機能の理解②				
	実習施設の人的・物的環境の理解①				
	実習施設の人的・物的環境の理解②				
	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①				
	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②				
	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③				
	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①				
	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②				
	施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解				
	反省会・まとめ				
指導方法 履修上の注意	「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。				
成績評価の方法	授業態度（５０％）、実習評価（５０％）				
教科書	特になし				
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。				

授 業 科 目	施 設 実 習	単 位 数	2	担 当 教 員	志 濃 原 亜 美 ・ 高 橋 恵
講義のねらいと概要および到達目標	施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について实际的に学習する。 保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、知的障害者施設等で実践するものである。 ①施設の役割や機能、施設保育士の職務についての理解を深める。 ②これまで学んできた福祉関係の授業の内容を実践的に理解する。				
授 業 計 画	実習施設の目的・機能の理解①				
	実習施設の目的・機能の理解②				
	実習施設の人的・物的環境の理解①				
	実習施設の人的・物的環境の理解②				
	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①				
	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②				
	施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③				
	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①				
	保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②				
	施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解				
	反省会・まとめ				
指導方法 履修上の注意	「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。 また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。				
成績評価の方法	レポート（50%）、実習課題（50%）				
教科書	『最新保育資料集 2014』（ミネルヴァ書房）				
参考文献	施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。				

授 業 科 目	保 育 所 実 習 II	単位数	2	担当教員	丸橋聡美・富山犬士
講義のねらいと概要および到達目標	保育所実習Ⅱの目標は、保育所の保育を実際に実践し、子ども理解、かかわりの視点の明確化、指導計画の作成・実践など保育士としての資質・能力・技術を修得する。また、子どもの保育及び保護者支援、地域の子育て家庭への支援について総合的に学び、保育所の役割や機能について理解を深める。後期実習は、主に参加・責任実習である。前期実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的に保育活動に参加し、保育の理論と技能を総合的に体験し実践できるようにする。自らの保育観や目標を確立する。 第2学年（二部は第3学年）に12日間実施。				
授 業 計 画	保育所の社会的役割と責任を学ぶ 養護と教育が一体となって行なわれる保育を学ぶ 子どもの心身の状態や活動の観察をする 保育士等の動きや実践の観察をする 保育所の生活の流れや展開の把握を学ぶ 環境を通して行なう保育、生活や遊びを通して総合的に行なう保育を理解する 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ 地域社会との連携を学ぶ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する 作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行なう 多様な保育の展開と保育士としての業務、職業倫理を理解する 保育士としての自己の課題を明確化する				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	「保育所実習研究Ⅱ」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。				
成績評価の方法	実習課題（20％）、実習日誌（30％）、実習施設による評価（50％）				
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書				
参 考 文 献	保育所実習研究の授業で使用する配布資料及び参考文献をよく参照すること。				

授 業 科 目	保 育 所 実 習 研 究 I		単位数	1	担当教員	丸橋聡美・富山太士
講義のねらいと概要および到達目標	この保育所実習研究Ⅰは、保育所実習に平行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。子どもの人権と最善の利益の考慮などを理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について学び実践できるようにする。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標明確にする。					
授 業 計 画	第1週	保育実習、保育所実習について				
	第2週	保育所実習の目的理解				
	第3週	前期実習の目的（参加、観察実習）				
	第4週	前期実習参加の心得				
	第5週	実習手続き書類の作成指導（配当資料）				
	第6週	実習手続き書類の作成指導（調査書）				
	第7週	オリエンテーションについて				
	第8週	持ち物、身だしなみについて				
	第9週	保育園の一日の流れ、実習中の注意事項				
	第10週	参加、観察実習の留意点				
	第11週	実習日誌の作成指導				
	第12週	実習日誌の作成				
	第13週	実習課題と準備の説明				
	第14週	実習課題と準備の作成				
	第15週	実習の総括と自己評価				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。					
成績評価の方 法	課題・レポート（60％）、授業態度（30％）、諸手続き（10％）					
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書					
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介する					

授 業 科 目	保 育 所 実 習 研 究 Ⅱ		単位数	1	担当教員	丸橋聡美・富山太士
講義のねらいと概要および到達目標	この保育所実習研究Ⅱは、保育所実習に平行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。 保育実習の意義・目的を理解し、総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の全体的計画に基づく具体的な計画や保育実践力を身につける。保育士の専門性と職業倫理を理解する。実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授 業 計 画	第1週	後期実習の目的（参加、責任指導実習）				
	第2週	後期実習参加の心得				
	第3週	部分、責任指導実習の留意点				
	第4週	実習日誌の作成指導				
	第5週	実習日誌の作成（乳児クラス）				
	第6週	実習日誌の作成（幼児クラス）				
	第7週	指導計画案の作成指導				
	第8週	指導計画案の作成（乳児クラス）				
	第9週	指導計画案の作成（3歳児クラス）				
	第10週	指導計画案の作成（4・5歳児クラス）				
	第11週	実習課題と準備の説明・作成				
	第12週	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成				
	第13週	実習の総括と自己評価				
	第14週	子ども観、保育観の確立と職業倫理について				
	第15週	課題の明確化				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。					
成績評価の方法	課題・レポート（60％）、授業態度（30％）、諸手続き（10％）					
教 科 書	『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』・解説書					
参 考 文 献	必要に応じて随時紹介する					

授 業 科 目	福 祉 施 設 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	小堀哲郎・高橋恵
講義のねらいと概要および到達目標	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。 ①施設実習に向けて、施設についての理解を深めることと、実際的な準備を不足なく行う。 ②施設実習についての反省を行い、保育者としての今後の課題を理解する。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	施設実習の意義を理解する				
	第3週	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解				
	第4週	居住型福祉施設の生活実態を知る（VTR）				
	第5週	実習生調査書の清書				
	第6週	実習日誌の書き方				
	第7週	児童福祉の相談機関、施設の概要①				
	第8週	児童福祉の相談機関、施設の概要②				
	第9週	施設実習の様子、実習生の動き方を学ぶ				
	第10週	実習に挑む心得①				
	第11週	実習に挑む心得②				
	第12週	実習に向けての最終確認				
	第13週	実習評価と反省				
	第14週	実習報告会の参加（代表者）				
	第15週	実習報告書の作成				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。					
成績評価の方法	課題（30％）、レポート（20％）、授業態度（50％）					
教 科 書	なし 必要に応じてプリントを配布する。					
参 考 文 献	授業中に適宜紹介する。					

授 業 科 目	福 祉 施 設 実 習 研 究		単位数	1	担当教員	志濃原亜美・高橋恵
講義のねらいと概要および到達目標	この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。 実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。 ①施設実習に向けて、施設についての理解を深めることと、実際的な準備を不足なく行う。 ②施設実習についての反省を行い、保育者としての今後の課題を理解する。					
授 業 計 画	第1週	オリエンテーション				
	第2週	施設実習の意義を理解する				
	第3週	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解				
	第4週	居住型福祉施設の生活実態を知る（V T R）				
	第5週	実習生調査書の清書				
	第6週	実習日誌の書き方				
	第7週	児童福祉の相談機関、施設の概要①				
	第8週	児童福祉の相談機関、施設の概要②				
	第9週	施設実習の様子、実習生の動き方を学ぶ				
	第10週	実習に挑む心得①				
	第11週	実習に挑む心得②				
	第12週	実習に向けての最終確認				
	第13週	実習評価と反省				
	第14週	実習報告会の参加（代表者）				
	第15週	実習報告書の作成				
指 導 方 法 履 修 上 の 注 意	各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。 ◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。					
成績評価の方法	課題（30%）、レポート（20%）、授業態度（50%）					
教 科 書	『新 保育ライブラリ 施設実習』（民秋言他編著、北大路書房）					
参 考 文 献	『最新保育資料集 2014』（ミネルヴァ書房） 参考文献は適宜紹介する					